

IBM

@server

iSeries

Advanced Job Scheduler for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

Advanced Job Scheduler for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、185 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Advanced Job Scheduler for iSeries (プロダクト番号 5722-JS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Advanced Job Scheduler for iSeries Commands
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

JSを使用したジョブの追加 (ADDJOBJS)	1	JSからのログ項目の除去 (RMVLOGEJS)	113
JS使用のジョブ権限の変更 (CHGAUTJS)	29	JSを使用したジョブ名前変更 (RNMJOBJS)	117
パラメーター・データの変更 (CHGDTAJS)	33	コンソール・コマンドの投入 (SBMCMDJS)	121
JSを使用したジョブの変更 (CHGJOBJS)	35	JS使用のジョブの投入 (SBMJOBJS)	123
通知コマンドの変更 (CHGNFYJS)	65	JS使用の従属ジョブの設定 (SETDEPJS)	147
JS使用ポケット・ベル変更コマンド (CHGPGRJS)	67	JSを使用したステップの設定 (SETSTPJS)	151
JS使用のジョブのコピー (CPYJOBJS)	69	JSを使用した配布の送信 (SNDDSTJS)	153
JSを使用した活動記録の表示 (DSPHSTJS)	75	JSを使用した報告書の送信 (SNDRPTJS)	161
JSを使用したジョブの表示 (DSPJOBJS)	81	JSを使用したグループの開始 (STRGRPJS)	163
ジョブ・スケジューラーのログ表示 (DSPLOGJS)	91	ジョブ・スケジューラー開始 (STRJS)	167
ジョブ・スケジューラー終了 (ENDJS)	97	JSを使用した活動記録の処理 (WRKHSTJS)	169
JSを使用したジョブの保留 (HLDJOBJS)	99	JSを使用したジョブの処理 (WRKJOBJS)	175
JS使用のスケジュールの印刷 (PRTSCDJS)	101	付録. 特記事項	185
JSを使用したジョブの解放 (RLSJOBJS)	105		
JSを使用した活動記録の除去 (RMVHSTJS)	107		
JSを使用したジョブの除去 (RMVJOBJS)	111		

JSを使用したジョブの追加 (ADDJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの追加(ADDJOBJS)コマンドでは、ジョブ・スケジュールに項目を追加することによりバッチ・ジョブをスケジュールすることができます。ジョブは、単一ジョブ、ジョブのグループのメンバー、またはアプリケーションとすることができます。このコマンドを使用して、指定するスケジュール・コードに基づいて、通常の間隔などで、バッチ・ジョブを1回投入するようにスケジュールすることができます。ユーザー定義の予定表、休日例外予定表、および会計年度予定表でジョブをスケジュールすることができます。

ジョブ・スケジュール項目の中には、処理するコマンド、ジョブの実行の元になるジョブ記述およびユーザー・プロファイル、ジョブが投入されるジョブ待ち行列、メッセージが送られるメッセージ待ち行列など、ジョブを投入するのに必要なすべての情報が含まれています。

指定した日付および時刻、またはADVANCED JOB SCHEDULERが計算する日付および時刻に、ジョブは指定されたジョブ待ち行列に投入されます。ただし、このコマンドはスケジュールされた時刻にジョブが実行を開始することを保証するものではありません。ジョブ待ち行列が保留されているか非活動のサブシステムに接続されていたり、あるいはサブシステムまたはシステム上で一度に実行できる活動ジョブが最大数に達している場合には、ジョブは実行を開始しません。

各ジョブ・スケジュール項目はユーザー定義ジョブによって識別され、このコマンドのジョブ(JOB)パラメーターとして指定されます。

制約事項:

- ジョブ記述およびユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。
- メッセージ待ち行列に対する*USEおよび追加(*ADD)権限が必要です。
- ジョブ待ち行列および指定されたオブジェクトと関連したすべてのライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
- *ADDJOB機能に対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
APP	アプリケーション	名前, *NONE, *JOBCTL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SCDCDE	スケジュール・コード	<u>*DAILY</u> , *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *NONE, *JOBCTL	オプション
TIME	スケジュール時刻	値 (最大 10 回の繰り返し): 0-2400	オプション
ITVMIN	間隔	1-720	オプション
CAL	予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
HDYCAL	休日予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
FSCCAL	会計予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
DAY	曜日	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SNGDAY	単一曜日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, <u>*SUN</u>	オプション
ITVDAY	間隔	1-99	オプション
DATE	年間の日付	値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
SNGDATE	単一日付	10 進数, <u>*NEXT</u>	オプション
SAVE	保管	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DAYMONTH	月間の日付	値 (最大 13 回の繰り返し): 1-31	オプション
WRKDAY	作業日数	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FSCPERIOD	会計期間	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 1-13	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CMD	コマンド要求	コマンド・ストリング	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*JOBCTL</u> , *LCL	オプション
RANGE	スケジュール範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	0-2400, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	0-2400, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*NONE</u>	
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, <u>*NOMAX</u>	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, <u>*JOBCTL</u> , *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, <u>*JOBCTL</u> , *COMP	
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, <u>*JOBCTL</u>	

キーワード	記述	選択項目	注
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHLD, *NOSBM	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBCTL, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOBDD	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *JOBCTL, *BLANK, *JOBDD, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *JOBCTL, *JOBDD, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 2: 重大度	0-99, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 3: テキスト	*JOBCTL, *JOBDD, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*JOBCTL, *JOBDD, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *JOBCTL, *JOBDD, *USRPRF, *BLANK	オプション
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLSPGRP	初期ASPグループ	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD, *NONE	オプション
ADLCMD	追加のコマンド	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

ジョブ項目(JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を示します。すべてのジョブにジョブ名を指定しなければなりません。さらに、そのジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30,など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

アプリケーション(APP)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブが属しているアプリケーションの名前を示します。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているアプリケーションが、このジョブのアプリケーションとして使用されます。

*NONE

このジョブにはアプリケーションが指定されていません。

アプリケーション名

追加するジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

スケジュール・コード(SCDCDE)

ジョブに割り当てたいスケジュール・コードを指定します。

注: スケジュール・コードの選択の結果としてジョブを実行する日は、予定表フィールドの1つで予定表を選択することによって変更できます。予定表の検討は、ジョブ制御(JSJOBCTL)メニューに進み、検討したい予定表タイプを選択することによって実行することができます。

***DAILY**

ジョブは毎日実行するか、あるいは毎週の選択した曜日に実行するようにスケジュールされます。たとえば、水曜日にだけ実行したり、あるいは週のすべての曜日に実行するようにスケジュールすることができます。

***CALENDAR**

ジョブをスケジュールするために予定表を使用します。予定表は「予定表の処理」画面で指定します。

***DATE**

ジョブは1年を通じて特定の日付に実行するようスケジュールされます。これらの日付はシステム値に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式でシステムに保管され、指定された日付に実行されます。13個までの日付をスケジュールすることができます。

***DAY** ジョブは毎月の予定表上の特定の日に実行されます。これらは日(DD)の形式で入力します。

***NUMDAY**

ジョブは指定された日数ごとに実行されます。指定できる日数の範囲は1から99です。

注: 実行のためにスケジュールされた時刻が現在時刻より大きい場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERはその時刻を丸1日としてカウントします(隔日の5:00 P.M.に実行するために月曜日の3:00 P.M.にADVANCED JOB SCHEDULERのジョブを入力した場合には、ジョブが最初に実行されるのは火曜日の5:00 P.M.になります)。

***MINUTES**

ジョブは指定された分数ごとに実行されます。分数は間隔(ITVMIN)パラメーターに指定されている分数に基づきます。

***ONCE**

ジョブは1回だけ実行されます。保管(SAVE)パラメーターは、ジョブの実行後にそのジョブを保管する(*YES)か、あるいは削除する(*NO)かを示します。ジョブ・グループの場合には、SAVEパラメーターは表示されず、保管(*YES)とみなされます。ジョブの実行がスケジュールされている日を、単一日付(SNGDATE)パラメーターに指定します。この日付をブランクにすると、予定時刻に達した時にジョブが実行されます。

***MONTHEND**

ジョブは月の最後の日に実行されます。

***FIRST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の指定曜日に実行されます。このオプションは、単一日付(SNGDAY)パラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第1火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

***SECOND**

ジョブは毎月または指定された会計期間の2番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第2火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

***THIRD**

ジョブは毎月または指定された会計期間の3番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第3火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FOURTH

ジョブは毎月または指定された会計期間の4番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第4火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FIFTH

ジョブは毎月または指定された会計期間の5番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第5火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

注: 月の中に5番目のオカレンスがない場合には、ジョブは実行されずに、次に月の中に選択された日の5番目のオカレンスのあるときに実行されるようにスケジュールされます。

*LAST ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月最終火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FIRSTWRK

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御の中の作業日フィールドと組み合わせて使用されます。

*LASTWRK

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御の中の作業日フィールドと組み合わせて使用されます。

*ALTERNATE

ジョブは、正規のジョブが異常終了して、このジョブがその代替ジョブとして定義された場合に実行されます。

*NONE

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバーとするか、先行ジョブの実行を待機中のジョブとするか、あるいはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されていたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

*JOBCTL

ジョブは、ジョブ制御に指定されているスケジュール・コードに基づいて実行されるようにスケジュールされます。

トップ

スケジュール時刻(TIME)

指定した日にジョブを実行したい時刻(1つまたは複数)を指定します。時刻は時、分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001から2400(深夜)にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

予定時刻

ADVANCED JOB SCHEDULERがジョブを投入する時刻を指定します。

トップ

間隔(ITVMIN)

*MINUTESスケジュール・コードとともに間隔として使用したい分数を指定します。このフィールドは*MINUTESスケジュール・コードを使用する場合には必須です。

分数 ジョブを投入する間隔の分数を指定します。指定できる値の範囲は1から720分です。

[トップ](#)

予定表(CAL)

ジョブで使用したい予定表の名前を指定します。予定表は、*NONE, *ALTERNATE,および*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用できるユーザー定義の曜日または日付のセットです。予定表によって、通常にスケジュールされた日付の他に、複数の日付をスケジュールに追加することができます。

***JOBCTL**

このジョブで使用される予定表はジョブ制御に指定されている予定表です。

***NONE**

このジョブは予定表を使用しません。

予定表名

このジョブで使用したい予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

休日予定表(HDYCAL)

ジョブで使用したい休日予定表の名前を示します。休日予定表はユーザー定義による除外曜日または除外日付のセットです。これを使用して、ジョブを処理するかどうかを決定することができます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の休日予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

***NONE**

このジョブは休日予定表を使用しません。

休日予定表名

このジョブに使用したい休日予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

会計予定表(FSCCAL)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブで使用したい会計予定表の名前を指定します。会計予定表は12または13の期間で構成され、各期間の開始日付および終了日付が示されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の会計予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

***NONE**

このジョブには会計予定表はありません。

会計予定表名

このジョブに使用したいユーザー定義の会計予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

曜日(DAY)

このジョブを処理したい日を示します。日は*DAILYおよび*MINUTESスケジュール・コードまたは1より大きい順序番号をもつジョブ・グループと一緒に使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

- *ALL** ジョブはすべての曜日に実行されます。
- *MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

単一曜日(SNGDAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は*FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH,および*LASTスケジュール・コードとともに使用されます。

注: *SUNは, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH,または*LASTを指定した場合の省略時の曜日です。

- *SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

間隔(ITVDAY)

*NUMDAYスケジュール・コードとともに間隔として使用したい日数を指定します。日数は1から99日の範囲にできます。このフィールドは*NUMDAYスケジュール・コードには必須です。

日数 ジョブの投入間隔の日数を指定してください。

[トップ](#)

年間の日付(DATE)

ジョブが処理されるようスケジュールされる日付を指定します。日付はシステム値に応じて月日(MMDD)、または日月(DDMM)の形式で入力します。年間の日付(DATE)パラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに値*DATEが入っているときに必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

単一日付(SNGDATE)

ジョブが処理されるようスケジュールされる日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。単一日付(SNGDATE)パラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*ONCEが入っているときだけ使用されます。

*NEXT

ジョブは次の予定時刻に処理されます。

単一日付

ジョブが投入される単一日付を指定してください。

[トップ](#)

保管(SAVE)

ジョブがその実行後に保管されるかどうかを指定します。保管(SAVE)パラメーターは、*ONCEスケジュール・コードと一緒に使用されます。

***YES** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERに保管されます。

***NO** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERによって削除されます。

[トップ](#)

月間の日付(DAYMONTH)

このジョブを処理したい月内の日付を示します。月内の日付は*DAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。月内の日付は1から31の範囲にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

作業日(WRKDAY)

月間の日付(DAYMONTH)パラメーターまたは間隔(ITVDAY)パラメーターに指定された日が作業日であるかどうかを指定します。作業日はそれぞれ*DAYおよび*NUMDAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。たとえば、*DAYスケジュール・コードの使用時に、DAYMONTHパラメーターに05および10を指定し、作業日(WRKDAY)パラメーターに*YESを指定した場合は、ジョブは毎月5番目と10番目の作業日に実行されます。*NOを指定した場合には、ジョブはそれぞれ月の5日と10日に実行されます。作業日はシステム制御に指定されます。

*NUMDAYスケジュール・コードを使用していた場合には、選択する間隔は作業日または暦日に基づいたものとなり、これは、WRKDAYパラメーターで選択したものによって異なります。

***NO** 作業日は、DAYMONTHまたはINTERVALパラメーターと組み合わせて使用しません。

***YES** 作業日は、DAYMONTHまたはINTERVALパラメーターと組み合わせて使用します。

[トップ](#)

会計期間(FSCPERIOD)

ジョブの会計内の期間を示します。期間は、会計予定表(FSCCAL)パラメーターに会計予定表名が指定されているときに使用されます。期間の範囲は1から13にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** すべての期間がジョブに組み込まれます。

会計期間番号

ジョブに組み込みたい会計期間を指定してください。

[トップ](#)

テキスト(TEXT)

ジョブに関連したテキストを示します。

***NONE**

ジョブに関連したテキスト記述はありません。

テキスト

ジョブに関連したテキスト記述を指定してください。

[トップ](#)

コマンド要求(CMD)

このジョブで処理したいコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。追加または変更されたジョブにおけるオブジェクトの存在はチェックされません。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

注: RMTLOCNAMEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

*LCL ジョブをローカルISERIESで実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと対応したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

スケジュール範囲(RANGE)

ジョブの開始時刻と終了時刻および開始日付と終了日付の範囲を指定します。

注: *MINUTESスケジュール・コードを使用する場合には、**終了時刻**と組み合わせて**開始時刻**の値を使用します。*MINUTESスケジュール・コードは、ジョブの開始および停止時刻を指示するためにこれらの2つの値を使用する唯一のスケジュール・コードです。**開始日付**および**終了日付**はほとんどのスケジュール・コードで使用することができます。

注: RANGEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

このパラメーターには、それぞれ2つの要素からなる2つのリストが入っています。

開始時刻として指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブには開始時刻は指定されません。

開始時刻

ジョブの開始時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

開始日付に指定できる値は次の通りです。

*NONE

このジョブには開始日付は指定されません。

開始日付

このジョブの開始日付をジョブ形式で指定してください。

終了時刻として指定できる値は次の通りです。

*NONE

このジョブには終了時刻は指定されていません。

終了時刻

このジョブの終了時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

終了日付として指定できる値は次の通りです。

*NONE

このジョブに指定された終了日付はありません。

終了日付

このジョブの終了日付をジョブ形式で指定してください。

トップ

最大実行時間(MAXRUN)

ジョブの最大実行時間（分数）を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*NOMAX

このジョブには最大時間はありません。

最大分数

このジョブの最大時間（分数）を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。最大分数は1-9999分の範囲とすることができます。

トップ

通知宛先（正常）(PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（正常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（正常）に指定できる値は、次の通りです。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

*ONCALL

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

*NONE

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが正常完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知宛先（異常）(PGRRCPABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（異常）に指定できる値は、次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが異常完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが異常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知宛先 (ジョブ開始) (PGRRCPPSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先 (ジョブ開始) に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度 (分数) を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

通知宛先 (ジョブ開始) に指定できる値は、次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

開始限度に指定できる値は、次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

開始限度

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる1-999の分数を指定してください。

トップ

代替ジョブ(ALTJOB)

追加するジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドをプロンプトしているときにジョブをジョブ・スケジュールから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

代替ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに代替ジョブはありません。

代替ジョブ名

このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブに代替グループはありません。

グループ名

このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

グループ順序番号

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

***NONE**

ジョブに報告書配布IDはありません。

報告書配布ID

このジョブと関連づけたい報告書配布IDを指定してください。

[トップ](#)

回復処置(RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取られる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数のオカレンスが脱落した場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初のオカレンスは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

このパラメーターは次の場合には適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留されてから解放された場合。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

***JOBCTL**

ジョブはジョブ制御に指定された回復処置を使用します。

***SBMRLS**

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

***SBMHL D**

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

***NOSBM**

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているジョブ記述がジョブで使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

ジョブ記述名

ジョブに使用するジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ記述名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前を指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているジョブ待ち行列がジョブで使用されます。

***JOBQ**

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述のジョブ待ち行列に入れられます。

ジョブ待ち行列名

投入されたジョブが入られるジョブ待ち行列の名前（ライブラリー名／ジョブ待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ優先順位（JOBQにおける）（JOBPTY）

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブに使用されます。

***JOBQ**

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブに使用されます。

ジョブ優先順位

ジョブのスケジューリング優先順位として1から9の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

出力優先順位（OUTQにおける）（OUTPTY）

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位であり、9が最低の優先順位です。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブに使用されます。

***JOBQ**

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブに使用されます。

出力優先順位

ジョブの出力の優先順位として1から9の範囲内の値を指定します。

[トップ](#)

印刷装置(PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置の修飾名を指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブで使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブで使用されます。

印刷装置名

投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

トップ

出力待ち行列(OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。このパラメータは、出力待ち行列として*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルに対してのみ適用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列がこのジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOB**

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

出力待ち行列名

投入されるジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前（ライブラリー名/出力待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 出力待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

出力待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー(USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBIDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

*CURRENT

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

*JOBID

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

ユーザー名

投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

[トップ](#)

印刷テキスト(PRTTXT)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される最大30桁までのテキストを指定します。

*JOBCTL

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

*SYSVAL

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

印刷テキスト

各ページの最下部に印刷される文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力できます。リスト上のテキストは、入力されたときと同じ方法で中央にそろえられます。

トップ

経路指定データ(RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定すめために使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されません。

経路指定データ

このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

トップ

現行ライブラリー(CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

*JOBCTL

ジョブ制御の中に指定されている現行ライブラリーが、投入されるジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

*CRTDFT

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

現行ライブラリー名

投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト(LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドをプロンプトしているときにライブラリー・リストをリストから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているライブラリー・リストが、投入されるジョブで使用されます。

***JOBDB**

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

***SYSVAL**

システムの省略時のユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブによって使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

***NONE**

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

ライブラリー・リスト名

このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージのロギング(LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

指定できるレベルの値は次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

***JOBDB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ・レベル

このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定する0から4の範囲内の値を指定します。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。

- CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。
- 要求に関連するすべてのメッセージ，あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に，指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。

4 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドおよび重大度コードが指定された重大度以上の（追跡メッセージを含む）すべてのメッセージ。

注: 高レベル・メッセージは，CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

メッセージ重大度に指定できる値は次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

***JOBBD**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ重大度

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを示す00から99の範囲の値を指定してください。

考えられるメッセージ・テキストのレベルの値は次の通りです。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

***JOBBD**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか，またはユーザーに表示されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージのヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか，あるいはユーザーに表示されます。

***NOLIST**

ジョブが正常に完了した場合には，ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には，ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには，メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

トップ

CLプログラムのコマンドのログ(LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドの**メッセージ・ロギング(LOG)**パラメーターに*JOBが指定されている場合は，このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは，要求と同じ方法でログに記録されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

トップ

照会メッセージに対する応答(INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されません。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

***SYSRPLY**

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確かめるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあつた場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留(HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうか決定されます。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ(SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストすることができ、プログラムの流れを制御するために使用されます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0（オフ）と1（オン）だけです。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

***JOBID**

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

スイッチ設定値

投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列(MSGQ)

投入されたジョブが正常または異常にかかわらず、実行を完了した時に完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

メッセージ待ち行列名

完了メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前（ライブラリー名/メッセージ待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

会計コード(ACGCDE)

この記述を使用するジョブに使用されるシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。

*JOBCTL

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

*JOBID

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

*USRPRF

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

*BLANK

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

会計コード

この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位(RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位の値は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲であり、これはジョブが他のジョブと機械資源を求めて競う時のジョブの重要性を表します。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

*JOBCTL

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

*NOCHG

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

マシン実行優先順位

ジョブが使用する1-99の範囲の実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

初期ASPグループ(INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、ASPグループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立したASPの中にあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーのオブジェクトは、通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立したASPの中にあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP 番号2-32)の中のライブラリーがそのスレッドのためのライブラリー名スペースを形成します。

*JOBCTL

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

*CURRENT

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*NONE

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前 投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

[トップ](#)

追加コマンド(ADLCMD)

このジョブで処理したい追加のコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。追加または変更されたジョブにおけるオブジェクトの存在はチェックされません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの追加

```
ADDJOBJS JOB(JOB01) TIME(1000)
```

このコマンドはジョブをジョブ・スケジュールに追加します。この例では、ジョブJOB01がジョブ・スケジュールに追加され、10:00 A.M.に実行するようにスケジュールされます。このジョブの省略時スケジュール・コードは*DAILYであり、DAYパラメーターは*ALLであることに注意してください。

例2: *CALENDARスケジュール・コードを指定したジョブの追加

```
ADDJOBJS JOB(JOB02) SCDCDE(*CALENDAR) CAL(CAL)
          TIME(1100) CMD(WRKACTJOB)
```

このコマンドはジョブJOB02をジョブ・スケジューラーに追加します。このジョブは、*CALENDARスケジュールおよびCALと呼ばれる予定表を使用して、11:00 A.M.に実行されるようにスケジュールされます。このジョブが実行されると、WRKACTJOBコマンドを処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブ権限の変更 (CHGAUTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブ権限の変更(CHGAUTJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERジョブに対してセットアップしたジョブ権限を変更することができます。権限を変更したいグループおよびアプリケーションだけでなく、特定のジョブ、総称ジョブ、またはすべてのジョブを選択することができます。

変更コマンドでパラメーターを選択して実行キーを押すと、ジョブに対して指定した権限が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	
USER	ユーザー	名前, *PUBLIC	必須, 定位置 2
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL	オプション
AUT	権限	単一値: *ALL, *CHANGE, *OPER, *USE, *EXCLUDE, *REMOVE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *SBM, *MGT, *AUT, *DSP, *CPY, *UPD, *RMV	オプション
REPLACE	置換権限	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

権限を変更したいジョブ、総称ジョブ、またはすべてのジョブの名前を指定します。ジョブが属しているグループおよびグループ内の関連順序番号を、任意に指定することができます。

これは必須パラメーターです。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのジョブ項目が変更されます。

総称 * ジョブ名

変更したいジョブ・スケジュール項目が属しているジョブ・スケジュール項目の総称名を指定してください。総称ジョブは、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たと

えば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブのすべての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なジョブと見なします。

ジョブ名

権限を変更したいジョブ項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

このジョブはグループに属していません。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのグループ項目が変更されます。

総称*グループ名

グループ項目の総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるグループのすべての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なグループと見なします。

グループ名

変更したいグループ項目のユーザー定義名を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

このジョブに関連した順序番号はありません。

***ALL** グループ中のすべての順序番号が権限変更に組み込まれます。

グループ順序番号

権限を変更したいグループの中のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー(USER)

指定のジョブに対する権限が与えられるユーザーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***PUBLIC**

このジョブに対する特定権限をもっていないすべてのシステム登録ユーザー（またはユーザーのグループ）が変更されます。

ユーザー名

権限を変更したいユーザー・プロファイルを指定してください。

[トップ](#)

アプリケーション(APP)

権限を変更したいアプリケーション、総称アプリケーション、またはすべてのアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーションが変更されます。

総称*アプリケーション名

変更したいジョブ・スケジュール項目が入っているアプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名のすべての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

アプリケーション名

権限を変更したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

ユーザー(USER)パラメーターに指定されているユーザーに与えられる権限を指定します。最大で7個までの権限を指定することができます。

単一値

*CHANGE

変更権限によりユーザーは、権限の保守を除いて、ジョブ上のすべての操作を実行することができます。

***ALL** ユーザーはジョブ上のすべての操作を実行することができます。ユーザーは、ジョブの存在を制御したり、ジョブの機密保護を指定したり、ジョブを変更したり、またジョブ上の基本機能を実行することができます。

*OPER

操作権限は、ジョブ投入権限、ジョブ管理権限、および表示権限を提供します。

***USE** 使用権限は、表示権限を提供します。

*EXCLUDE

排他権限は、ユーザーがジョブをアクセスするのを防ぎます。

*REMOVE

指定されたユーザーの権限項目を除去します。

その他の値

以下の値の最大7個を指定することができます。

***SBM** 投入権限により、ユーザーはジョブ・グループを開始するか、あるいはジョブを投入することができます。

***MGT** 管理権限により、ユーザーはジョブを保留するか、あるいは保留解除することができます。さらに、管理権限により、ジョブ・スケジューラーを使用した従属ジョブ設定(SETDEPJS)コマンドを使用できる他に、ジョブ依存関係を処理することもできます。

***AUT** ユーザーは、ジョブの権限を変更することができます。

***DSP** 表示権限により、ユーザーはジョブの情報を表示することができます。

***CPY** コピー権限により、ユーザーはジョブをコピーすることができます。

***UPD** 更新権限により、ユーザーはジョブの属性を変更することができます。

***RMV** 除去権限により、ユーザーはジョブを除去することができます。

置換(REPLACE)

ユーザー(USER)パラメーターに指定されているユーザーの現行ジョブ権限を置き換える必要があるかどうかを指定します。

***NO** 現行ジョブ権限を置き換えません。これは、現行ジョブ権限と**権限(AUT)**パラメーターに指定された権限を結合します。

***YES** 現行ジョブ権限をAUTパラメーターに指定された権限で置き換えます。

例

```
CHGAUTJS JOB(JOB02) USER(SAM) AUT(*USE)
```

このコマンドは、JOB02ジョブをユーザーSAMに*USE権限を与えるように変更します。この権限はユーザーSAMに画面表示権限を提供します。

エラー・メッセージ

不明

パラメーター・データの変更 (CHGDTAJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パラメーター・データの変更(CHGDTAJS)コマンドにより、指定するパラメーターのパラメーター・データを変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PARM	パラメーター名	名前	必須, キー, 定位置 1
PARMDATA	パラメーター・データ	文字値, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

パラメーター(PARM)

そのデータを変更したいパラメーターの名前を指定します。ADVANCED JOB SCHEDULERに追加されていないパラメーターを入力すると、エラー・メッセージを受け取ることになります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

パラメーター・データ(PARMDATA)

パラメーター(PARM)パラメーターに指定されているパラメーターのユーザー定義のパラメーター・データを指定します。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

パラメーター・データ

パラメーター名のパラメーター・データを指定してください。

[トップ](#)

例

```
CHGDTAJS  PARM(FRDATE)  PARMDATA('12/01/99')
```

このコマンドはパラメーターFRDATEが12/01/99になるように変更します。この例の場合のPARMDATAの日付形式はMM/DD/YYです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの変更 (CHGJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの変更(CHGJOBJS)コマンドにより、ジョブ・スケジュール中の項目を変更することができます。ジョブは、単一ジョブ、ジョブのグループのメンバー、またはアプリケーションとすることができます。このコマンドを使用することにより、指定するスケジュール・コードに基づいて通常の間隔などで、1回だけ投入されるバッチ・ジョブをスケジュールすることができます。ユーザー定義の予定表、休日例外予定表、および会計年度予定表でジョブをスケジュールすることができます。

ジョブ・スケジュール項目には、ジョブが実行するコマンド、ジョブの実行の元になるジョブ記述およびユーザー・プロファイル、ジョブが投入されるジョブ待ち行列、メッセージの送信先のメッセージ待ち行列などの、ジョブを投入するのに必要なすべての情報が含まれています。

指定した日付および時刻、またはADVANCED JOB SCHEDULERが計算する日付および時刻に、ジョブは指定されたジョブ待ち行列に投入されます。ただし、このコマンドはスケジュールされた時刻にジョブが実行を開始することを保証するものではありません。ジョブ待ち行列が保留されているか非活動のサブシステムに接続されていたり、あるいはサブシステムまたはシステム上で一度に実行できる活動ジョブが最大数に達している場合には、ジョブは実行を開始しません。

各ジョブ・スケジュール項目はユーザー定義ジョブによって識別され、このコマンドのジョブ(JOB)パラメーターとして指定されます。

制約事項:

- ジョブ記述およびユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。
- メッセージ待ち行列に対する*USEおよび追加(*ADD)権限が必要です。
- ジョブ待ち行列および指定されたオブジェクトと関連したすべてのライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
- *ADDJOB機能に対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
APP	アプリケーション	名前, *SAME, *NONE, *JOBCTL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SCDCDE	スケジュール・コード	*SAME , *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *NONE, *JOBCTL	オプション
TIME	スケジュール時刻	単一値: *SAME その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 0-2400	オプション
ITVMIN	間隔	1-720, *SAME	オプション
CAL	予定表	名前, *SAME , *NONE, *JOBCTL	オプション
HDYCAL	休日予定表	名前, *SAME , *NONE, *JOBCTL	オプション
FSCCAL	会計予定表	名前, *SAME , *NONE, *JOBCTL	オプション
DAY	曜日	単一値: *SAME , *ALL, *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SNGDAY	単一曜日	*SAME , *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
ITVDAY	間隔	1-99, *SAME	オプション
DATE	年間の日付	単一値: *SAME その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
SNGDATE	単一日付	10 進数, *SAME , *NEXT	オプション
SAVE	保管	*SAME , *YES, *NO	オプション
DAYMONTH	月間の日付	単一値: *SAME その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
WRKDAY	作業日数	*SAME , *NO, *YES	オプション
FSCPERIOD	会計期間	単一値: *SAME , *ALL その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 1-13	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *SAME , *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *SAME , *JOBCTL, *LCL	オプション
RANGE	スケジュール範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	0-2400, *SAME , *NONE	
	要素 2: 開始日	文字値, *SAME , *NONE	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	0-2400, *SAME , *NONE	
	要素 2: 終了日	文字値, *SAME , *NONE	
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, *SAME , *NOMAX	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME , *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME , *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, *JOBCTL, *SAME	

キーワード	記述	選択項目	注
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *SAME , *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*SAME , *JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHL, *NOSBM	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *SAME , *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME , *JOBCTL, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *SAME , *JOBCTL, *JOB	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *SAME , *JOBCTL, *JOB	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME , *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOB	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME , *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *SAME , *JOBCTL, *CURRENT, *JOB	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME , *JOBCTL, *BLANK, *JOB, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *SAME , *JOBCTL, *JOB	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME , *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *SAME , *JOBCTL, *JOB, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME , *JOBCTL, *JOB	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME , *JOBCTL, *JOB	
	要素 3: テキスト	*SAME , *JOBCTL, *JOB, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*SAME , *JOBCTL, *JOB, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*SAME , *JOBCTL, *JOB, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*SAME , *JOBCTL, *JOB, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME , *JOBCTL, *JOB	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *SAME , *JOBCTL, *JOB, *USRPRF, *BLANK	オプション
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *SAME , *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *SAME , *JOBCTL, *CURRENT, *JOB, *NONE	オプション

トップ

ジョブ項目(JOB)

変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を示します。ジョブ名は、指定しなければなりません。あるいは、代りにそのジョブが属しているグループを、そのグループ内でのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30,など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

変更したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

アプリケーション(APP)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブが属しているアプリケーションの名前を示します。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*NONE

このジョブはアプリケーションに属していません。

アプリケーション名

変更するジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

スケジュール・コード(SCDCDE)

ジョブに割り当てたいスケジュール・コードを指定します。

注: スケジュール・コードの選択の結果としてジョブを実行する日は、予定表フィールドの1つで予定表を選択することによって変更することができます。予定表の検討は、ジョブ制御(JSJOBCTL)メニューに進み、検討したい予定表タイプを選択することによって実行することができます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***DAILY**

ジョブは毎日実行するか、あるいは毎週の選択した曜日に実行するようにスケジュールされます。たとえば、水曜日にだけ実行したり、あるいは週のすべての曜日に実行するようにスケジュールできます。

***CALENDAR**

ジョブをスケジュールするために予定表を使用します。予定表は「予定表の処理」画面でユーザーが定義します。

***DATE**

ジョブは1年を通じて特定の日付に実行するようスケジュールされます。これらの日付はシステム値に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式でシステムに保管され、指定された日付に実行されます。13個までの日付をスケジュールできます。

***DAY** ジョブは毎月の予定表上の特定の日に実行されます。これらは日(DD)の形式で入力します。

***NUMDAY**

ジョブは指定された日数ごとに実行されます。指定できる日数の範囲は1から99です。

注: 実行のためにスケジュールされた時刻が現在時刻より大きい場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERはその時刻を丸1日としてカウントします(隔日の5:00 P.M.に実行するために月曜日の3:00 P.M.にADVANCED JOB SCHEDULERのジョブを入力した場合には、ジョブが最初に実行されるのは火曜日の5:00 P.M.になります)。

***MINUTES**

ジョブは指定された分数ごとに実行されます。分数は間隔(ITVMIN)パラメーターに指定されている分数に基づきます。

***ONCE**

ジョブは1回だけ実行されます。保管(SAVE)パラメーターは、ジョブの実行後にそのジョブを保管する(*YES)か、あるいは削除する(*NO)かを示します。ジョブ・グループの場合には、SAVEパラメーターは表示されず、保管(*YES)とみなされます。ジョブの実行がスケジュールされている日を、単一日付(SNGDATE)パラメーターに入力します。この日付をブランクにした場合には、予定時刻が到来した時にジョブが実行されます。

***MONTHEND**

ジョブは月の最後の日に実行されます。

***FIRST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の指定曜日に実行されます。このオプションは、単一曜日(SNGDAY)パラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第1火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

***SECOND**

ジョブは毎月または指定された会計期間の2番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第2火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

***THIRD**

ジョブは毎月または指定された会計期間の3番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第3火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FOURTH

ジョブは毎月または指定された会計期間の4番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第4火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FIFTH

ジョブは毎月または指定された会計期間の5番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月第5火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

注: 月の中に5番目のオカレンスがない場合にはジョブは実行されず、次に月の中に選択された日の5番目のオカレンスのあるときに実行するようにスケジュールされます。

*LAST ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブは毎月最終火曜日に実行されるようにスケジュールされます。

*FIRSTWRK

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御の中の作業日フィールドと組み合わせて使用されます。

*LASTWRK

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御の中の作業日フィールドと組み合わせて使用されます。

*ALTERNATE

ジョブは、正規のジョブが異常終了して、このジョブがその代替ジョブとして定義された場合に実行されます。

*NONE

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバー、先行ジョブの実行を待機中のジョブ、またはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されていたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

*JOBCTL

ジョブは、ジョブ制御に指定されているスケジュール・コードに基づいて実行するようにスケジュールされます。

トップ

スケジュール時刻(TIME)

指定された日にジョブを処理する時刻(1つまたは複数)を示します。時刻は時、分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001から2400(深夜)にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

予定時刻

ジョブを処理したい時刻を指定してください。

間隔(ITVMIN)

*MINUTESスケジュール・コードとともに間隔として使用したい分数を指定します。間隔時間は1から999分の範囲にできます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

分数 ジョブを投入する間隔の分数を指定します。

トップ

予定表(CAL)

ジョブをスケジュールするために使用したい予定表の名前を指定します。予定表は、*NONE, *ALTERNATE,および*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用できるユーザー定義の曜日または日付のセットです。予定表によって、通常にスケジュールされた日付の他に、複数の日付をスケジュールに追加することができます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*NONE

このジョブは予定表を使用しません。

予定表名

このジョブで使用したい予定表の名前を指定してください。

トップ

休日予定表(HDYCAL)

ジョブをスケジュールするために使用したい休日予定表の名前を指定します。休日予定表は*NONE, *ALTERNATEおよび*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用されるユーザー定義の例外曜日または日付のセットです。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*NONE

このジョブは休日予定表を使用しません。

休日予定表名

このジョブに使用したい休日予定表の名前を指定してください。

トップ

会計予定表(FSCCAL)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブで使用したい会計予定表の名前を指定します。会計予定表は12または13の期間で構成され、各期間の開始日付および終了日付が示されます。会計予定表は*NONE、*ALTERNATE,および*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードと共に使用できます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*NONE

このジョブには会計予定表はありません。

会計予定表名

このジョブに使用したいユーザー定義の会計予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

曜日(DAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は、*DAILYおよび*MINUTESスケジュール・コードまたは1より大きい順序番号をもつジョブ・グループで使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

***ALL** ジョブはすべての曜日に実行されます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

***WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。

***THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。

***FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

単一曜日(SNGDAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は*FIRST、*SECOND、*THIRD、*FOURTH、*FIFTH,および*LASTスケジュール・コードとともに使用されます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

- *WED ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *THU ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *FRI ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。
- *SAT ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

間隔(ITVDAY)

*NUMDAYスケジュール・コードとともに間隔として使用したい日数を指定します。日数は1から99日の範囲にできます。このフィールドは*NUMDAYスケジュール・コードには必須です。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

日数 ジョブの投入間隔の日数を指定してください。

[トップ](#)

年間の日付(DATE)

ジョブが処理されるようスケジュールされる日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。年間の日付(DATE)パラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*DATEが入っているときに必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

年間の日付

ジョブを実行したい年間の日付。

[トップ](#)

単一日付(SNGDATE)

ジョブが処理されるようスケジュールされる日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。単一日付(SNGDATE)パラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*ONCEが入っているときだけ使用されます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*NEXT

ジョブは予定時刻が到来した時に処理されます。

単一日付

ジョブが投入される単一の日付を指定してください。

[トップ](#)

保管(SAVE)

ジョブがその実行後に保管されるかどうかを指定します。保管(SAVE)パラメーターは、*ONCEスケジュール・コードと一緒に使用されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***YES** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERに保管されます。

***NO** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERによって削除されます。

[トップ](#)

月間の日付(DAYMONTH)

このジョブを処理したい月内の日付を示します。月内の日付は*DAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。月内の日付は1から31の範囲にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

月間の日付

このジョブを処理したい月内の日付を指定します。

[トップ](#)

作業日(WRKDAY)

月間の日付(DAYMONTH)パラメーターまたは間隔(ITVDAY)パラメーターに指定された日が作業日であるかどうかを指定します。作業日はそれぞれ*DAYと*NUMDAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。たとえば、*DAYスケジュール・コードの使用時に、DAYMONTHに05および10を指定し、**作業日(WRKDAY)**パラメーターに*YESを指定した場合は、ジョブは毎月5番目と10番目の作業日に実行されます。*NOを指定した場合には、ジョブはそれぞれ月の5日と10日に実行されます。作業日はシステム制御に指定されます。

*NUMDAYスケジュール・コードを使用していた場合には、選択する間隔は作業日または暦日に基づいたものとなり、これは、WRKDAYパラメーターで選択したものによって異なります。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NO** 作業日は、DAYMONTHパラメーターと組み合わせて使用しません。

***YES** 作業日は、DAYMONTHパラメーターと組み合わせて使用します。

[トップ](#)

会計期間(FSCPERIOD)

ジョブの会計の会計期間を示します。期間は、**会計予定表(FSCCAL)**パラメーターに会計予定表名が指定されているときに使用されます。期間の範囲は1から13にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***ALL** すべての期間がジョブに組み込まれます。

会計期間番号

ジョブに組み込みたい会計期間を指定してください。

[トップ](#)

テキスト(TEXT)

ジョブに関連したテキストを示します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

ジョブに関連したテキスト記述はありません。

テキスト

ジョブに関連したテキスト記述を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

注: RMTLOCNAMEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

***LCL** ジョブをローカルISERIESで実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

スケジュール範囲(RANGE)

ジョブの開始時刻と終了時刻および開始日付と終了日付の範囲を指定します。

注: *MINUTESスケジュール・コードを使用する場合には、**開始時刻**の値は**終了時刻**と組み合わせて使用します。*MINUTESスケジュール・コードは、ジョブの開始および停止時刻を指示するためにこれらの2つの値を使用する唯一のスケジュール・コードです。**開始日付**および**終了日付**はほとんどのスケジュール・コードで使用することができます。

注: RANGEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

このパラメーターには、それぞれ2つの要素からなる2つのリストが入っています。

開始時刻として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

ジョブには開始時刻は指定されません。

開始時刻

ジョブの開始時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

開始日付として指定できる値は次の通りです：

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

このジョブには開始日付は指定されません。

開始日付

このジョブの開始日付をジョブ形式で指定してください。

終了時刻として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

このジョブには終了時刻は指定されていません。

終了時刻

このジョブの終了時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

終了日付として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

このジョブに指定された終了日付はありません。

終了日付

このジョブの終了日付をジョブ形式で指定してください。

[トップ](#)

最大実行時間(MAXRUN)

ジョブの最大実行時間（分数）を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NOMAX**

このジョブには最大時間はありません。

最大分数

このジョブの最大時間（分数）を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。最大分数は1から9999分の範囲にできます。

[トップ](#)

通知宛先（正常）(PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（正常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（正常）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが正常完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

トップ

通知宛先（異常）(PGRRC PABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（異常）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが異常完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが異常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知宛先（ジョブ開始）(PGRRCPSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（ジョブ開始）に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度（分数）を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

通知宛先（ジョブ開始）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

開始限度に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

開始限度

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる1-999の分数を指定してください。

[トップ](#)

代替ジョブ(ALTJOB)

ジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドをプロンプトしているときにジョブをジョブ・スケジュールから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

代替ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

ジョブに代替ジョブはありません。

代替ジョブ名

このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブに代替グループはありません。

グループ名

このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

グループ順序番号

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

ジョブに報告書配布IDはありません。

報告書配布ID

このジョブと関連づけたい報告書配布IDを指定してください。

[トップ](#)

回復処置(RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取られる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次回のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数のオカレンスが脱落した場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初のオカレンスは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

このパラメーターは次の場合には適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留されてから解放された場合。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブはジョブ制御に指定された回復処置を使用します。

*SBMRLS

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

*SBMHLD

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

*NOSBM

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定します。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ記述がこのジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

ジョブ記述名

ジョブに使用するジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ記述名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ記述名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前を指定します。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列がこのジョブで使用されます。

*JOBQ

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述のジョブ待ち行列に入れられます。

ジョブ待ち行列名

投入されたジョブが入れられるジョブ待ち行列の名前（ライブラリー名/ジョブ待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ優先順位（JOBQにおける）(JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位であり、9が最低の優先順位です。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブに使用されます。

スケジューリング優先順位

ジョブのスケジューリング優先順位として1から9の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

出力優先順位 (OUTQにおける) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位であり、9が最低の優先順位です。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブに使用されます。

出力優先順位

ジョブの出力の優先順位として1から9の範囲内の値を指定します。

[トップ](#)

印刷装置(PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置の修飾名を指定します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブに使用されます。

印刷装置名

投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列(OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルにだけ適用されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列が、このジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOBID**

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

出力待ち行列名

投入されるジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前（ライブラリー名/出力待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 出力待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

出力待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー(USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBIDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS

- QTSTRQS

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

***JOBID**

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

ユーザー名

投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

[トップ](#)

印刷テキスト(PRTTXT)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される最大30桁までのテキストを指定します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOBID**

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

印刷テキスト

各ページの最下部に印刷される文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力できます。リスト上のテキストは、入力されたときと同じ方法で中央にそろえられます。

[トップ](#)

経路指定データ(RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定すめために使用されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されます。

経路指定データ

このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

[トップ](#)

現行ライブラリー(CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の現行ライブラリーが投入されたジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

***CRTDFT**

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

現行ライブラリー名

投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト(LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドをプロンプトしているときにライブラリー・リストをリストから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中のライブラリー・リストがこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

***SYSVAL**

システムの省略時のユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

***NONE**

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

ライブラリー・リスト名

このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージのロギング(LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

指定できるレベルの値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ・レベル

このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定する0から4の範囲内の値を指定します。ロギング・レベルの値は次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。

- 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。

4 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドおよび重大度コードが指定された重大度以上の（追跡メッセージを含む）すべてのメッセージ。

注: 高レベル・メッセージは、CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

メッセージ重大度に指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

***JOBBD**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ重大度

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを示す00から99の範囲の値を指定します。

考えられるメッセージ・テキストのレベルの値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

***JOBBD**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか、またはユーザーに表示されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージのヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか、あるいはユーザーに表示されます。

***NOLIST**

ジョブが正常に完了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには、メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

トップ

CLプログラムのコマンドのログ(LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドのメッセージ・ロギング(LOG)パラメーターに*JOBが指定されている場合は、このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは、要求と同じ方法でログに記録されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

トップ

照会メッセージに対する応答(INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されます。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに応答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

***SYSRPLY**

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確認するために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあった場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留(HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうか決定されます。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ(SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストすることができ、プログラムの流れを制御するために使用されます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0(オフ)と1(オン)だけです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

スイッチ設定値

投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列(MSGQ)

投入されたジョブが正常か異常かにかかわらず、実行を完了した時点で完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

メッセージ待ち行列名

完了メッセージの送信先であるメッセージ待ち行列の名前（ライブラリー名/メッセージ待ち行列名）を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

会計コード(ACGCDE)

この記述を使用するジョブのシステム資源の使用をログに記録する時に使用される会計コードを指定します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

***JOB**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

***USRPRF**

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

***BLANK**

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

会計コード

この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位(RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は、他のジョブとマシン資源の使用を競合する時のジョブの重要性を表す1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの値です。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

***NOCHG**

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

マシン実行優先順位

ジョブが使用する1-99の範囲内の優先順位を指定してください。

[トップ](#)

初期ASPグループ(INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、ASPグループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立したASPの中にあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーのオブジェクトは、通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立したASPの中にあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP 番号2-32)の中でのライブラリーがそのスレッドのためのライブラリー名スペースを形成します。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

***CURRENT**

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

***JOBID**

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

***NONE**

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前

投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの変更

```
CHGJOBJS  JOB(JOB02) APP(ACCTG) SCDCDE(*DAILY)
           FSCPERIOD(*ALL) TEXT('CHANGE TO JOB02')
```

このコマンドはジョブJOB02を変更します。このジョブのアプリケーションは会計アプリケーションに変更され、ジョブは、すべての会計期間にわたりスケジュール・コード*DAILYに従って実行されるように変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

通知コマンドの変更 (CHGNFYJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した通知コマンドの変更(CHGNFYJS)コマンドにより、ユーザーが指定する宛先にメッセージを送信するための通知ソフトウェアから、使用するコマンドを指定することができます。ここで指定したコマンドは、ADDJOBJS、CHGJOBJS、およびSBMJOBJSコマンドによって、それぞれ正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合に通知を送信するために使用されます。通知宛先 (正常) (PGRRCPNORM)、通知宛先 (異常) (PGRRCPABN)、および通知 (ジョブ開始) (PGRRCPSTR)パラメーターに指定した通知宛先および通知メッセージの値は、CHGNFYJSコマンドで使用される置換値となります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	通知コマンド	文字値, *SAME, *SNDDSTJS, *NONE	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

通知コマンド(CMD)

メッセージを送信するために指定の通知ソフトウェアの中で使用されるコマンドを指定します。ここで指定したコマンドは、正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合に通知を送信するために使用されます。

*SAME

パラメーターの現在の値は変更されません。

*SNDDSTJS

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)を使用し、指定した宛先への電子メールを使用して、通知メッセージを送信します。置換変数が使用されますが、指定されていません。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドを使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

*NONE

ADVANCED JOB SCHEDULERで通知ソフトウェア・パッケージは使用しません。

通知コマンド

正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合にADVANCED JOB SCHEDULERにメッセージを送信させたい時に使用するコマンドを指定してください。2つの置換変数は&RCP (宛先) と&MSGTXT (メッセージ) です。

[トップ](#)

例

```
CHGNFYJS  CMD('SNDMAMSG TOUSER(&RCP)
           MSG('&MSGTXT'))')
```

このコマンドはADVANCED JOB SCHEDULERの通知属性を変更します。この例では、正常または異常なジョブ完了の結果としてメッセージを宛先に送信するために、MNAメッセージの送信(SNDMAMSG)コマンドが使用されます。変数&RCP（宛先）および&MSGTXT（メッセージ）の値はPGRRCPNORMおよびPGRRCPABNパラメーターの中で指定され、CHGNFYJSコマンドで使用される置換変数となります。&MSGTXT変数の前後に引用符の対を入れる必要があります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用ポケット・ベル変更コマンド (CHGPGRJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したポケット・ベル・コマンドの変更(CHGPGRJS) コマンドを使用することにより、指定する宛先にポケット・ベル・メッセージを送信するためにポケット・ベル呼び出しソフトウェアで使用するコマンドを指定することができます。ここで指定するコマンドは、ADDJOBJS、CHGJOBJS、およびSBMJOBJSコマンドによって、それぞれ正常および異常なジョブ完了の場合にページを送信するために使用されます。ポケット・ベル (正常) (PGRRCPNORM)およびポケット・ベル (異常) (PGRRCPABN)パラメーターに指定したポケット・ベル宛先およびポケット・ベル・メッセージの値は、CHGPGRJSコマンドで使用される置換値となります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	通知コマンド	文字値, *SAME, *SNDDSTJS, *NONE	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

ポケット・ベル・コマンド(CMD)

メッセージを送信するために指定のポケット・ベル呼び出しソフトウェアの中で使用するコマンドを指定します。ここで指定するコマンドは、ジョブ・スケジュール項目の正常および異常完了の場合にページを送信するために使用されます。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

ADVANCED JOB SCHEDULERでポケット・ベル呼び出しソフトウェア・パッケージは使用しません。

***SNDDSTJS**

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)を使用し、指定した宛先への電子メールを使用して、通知メッセージを送信します。置換変数が使用されますが、指定されていません。

ポケット・ベル・コマンド

正常および異常なジョブ完了の場合にADVANCED JOB SCHEDULERでポケット・ベル・メッセージを送信する時に使用するコマンドを指定してください。2つの置換変数は&RCP (宛先) と &MSGTXT (メッセージ) です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブのコピー (CPYJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用するジョブのコピー(CPYJOBJS)コマンドによって、1つ以上のジョブとそのパラメーターのすべてを、1つ以上の新規のジョブにコピーすることができます。同じシステム上でジョブをコピーしたり、ユーザーが指定したリモート・ロケーション名にジョブをコピーしたり、あるいは同じシステム上の別のデータ・ライブラリーにジョブをコピーすることができます。新規ジョブの作成後に、関連するパラメーターの一部またはすべてを修正または変更することができます。

グループ内のすべてのジョブを、指定の新規グループにコピーすることができます。グループのコピー時には、コピー元ジョブの ジョブおよびグループ順序 フィールドに*ALLを、コピー先ジョブの ジョブおよびグループ順序 フィールドに*SAMEを指定しなければなりません。

従属関係をコピーするかどうか、ジョブをコピーしたい宛先、およびジョブのコピー時に行う必要がある処置の内容を指定することができます。実際のジョブ・コピーを処理する前に、1つ以上のジョブのコピーの影響を分析する報告書を印刷することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMJOB	FROMジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE, *ALL	
TOJOB	TOジョブ項目	単一値: *RMTLOCNAME, *DATALIB その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前, *SAME	
	要素 2: グループ	名前, *SAME, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *SAME, *NONE	
CPYDEP	従属関係のコピー	*NO, *YES	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前	オプション
DATALIB	データ・ライブラリー	名前	オプション
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
ACTION	処置	*REPORT, *COPY	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ITMOPT	項目オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ定義	*ADD, *REPLACE	
	要素 2: アプリケーション	*ADD, *REPLACE	
	要素 3: 予定表	*ADD, *REPLACE	
	要素 4: 休日予定表	*ADD, *REPLACE	
	要素 5: 会計予定表	*ADD, *REPLACE	
	要素 6: ライブラリー・リスト	*ADD, *REPLACE	
	要素 7: パラメーター	*ADD, *REPLACE	

トップ

コピー元ジョブ項目(FROMJOB)

新しいジョブを作成するためにコピーしたいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。ジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

注: *ALLおよび総称*ジョブ名の選択項目を適用できるのは、リモート・ロケーション名がリモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)パラメーターに指定されているか、あるいはデータ・ライブラリーがデータ・ライブラリー(DTALIB)パラメーターに指定されている場合だけです。これらのパラメーターは、それぞれ*RMTLOCNAMEまたは*DTALIBをコピー先ジョブ項目(TOJOB)ジョブ・パラメーターに指定した後に使用可能になります。

注: グループをコピーしている場合には、ジョブ名に*ALLを、グループ順序に単一のグループ名と*ALLを指定しなければなりません。

***ALL** コマンドに指定した他のパラメーターと一致するすべてのジョブがコピーされます。

総称*ジョブ名

ジョブの総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブ名をもつすべての項目が表示されます。総称(接頭部)名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全なジョブ名と見なします。

ジョブ名

コピーしたいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

***ALL** そのジョブが属しているすべてのグループをコピーします。

総称*グループ名

グループの総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるグループ名をもつすべての項目が表示されます。総称(接頭部)名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全なジョブ名と見なします。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

***ALL** すべての順序番号をコピーします。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

コピー先ジョブ項目(TOJOB)

コピー元ジョブ(FRONJOB)パラメーターに指定されている1つ以上のジョブをコピーした結果として作成するジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。ジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

注: グループをコピーしている場合には、ジョブ名に*SAMEを指定し、グループ順序番号に単一のグループ名と*SAMEを指定しなければなりません。

***SAME**

ジョブの現行の名前は変更されません。

***RMTLOCNAME**

ジョブはリモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)パラメーターに指定されたりリモート・ロケーション名にコピーされます。

***DATALIB**

ジョブはデータ・ライブラリー(DTALIB)パラメーターに指定された同じシステム上のデータ・ライブラリーにコピーされます。

ジョブ名

コピーするジョブから作成するジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***SAME**

グループの現行の名前は変更されません。

***NONE**

ジョブはグループのメンバーではありません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

ジョブの順序番号は変更されません。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

トップ

従属関係のコピー(CPYDEP)

依存関係をコピー元ジョブ(FROMJOB)パラメーターに指定されているジョブからコピー先ジョブ(TOJOB)パラメーターに指定されているジョブにコピーする必要があるかどうかを指定します。

***NO** 元のジョブからジョブ従属関係は新しいジョブにコピーされません。

***YES** 元のジョブからジョブ従属関係が新しいジョブにコピーされます。

トップ

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

ジョブのコピー先であるシステムのロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

リモート・ロケーション名

ジョブのコピー先であるシステムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

データ・ライブラリー(DTALIB)

ジョブのコピー先であるデータ・ライブラリーを指定します。

データ・ライブラリー

ジョブのコピー先であるデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アプリケーション(APP)

コピー元ジョブ(FROMJOB)パラメーターに指定されたジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** FROMJOBパラメーターに指定されたジョブを含むすべてのアプリケーションを組み込みます。

*NONE

このジョブにはアプリケーションが指定されていません。

総称*アプリケーション名

アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その

総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

アプリケーション名

コピーしているジョブが属しているアプリケーション・プログラムの名前を指定します。

[トップ](#)

処置(ACTION)

ジョブ・リモート報告書のコピーを作成するか、あるいは実際のコピーを実行したいかどうかを指定することができます。

*REPORT

ジョブ・リモート報告書のコピーを作成します。これは、*ALLまたは総称選択を使用する時には特に、別のシステムにジョブをコピーする前に行うようお奨めします。この報告書の印刷装置ファイルはQPIJS2CJです。

*COPY

要求されたジョブをコピーします。

[トップ](#)

項目オプション(ITMOPT)

処置リストに指定された各項目に対して行う処置の内容を指定します。

ジョブ定義に使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブのジョブ定義をコピー先に追加します。ジョブ定義がすでに存在する場合には、このジョブ定義はコピーされません。

*REPLACE

ジョブのジョブ定義をコピー先に追加します。ジョブ定義がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

アプリケーションで使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブのアプリケーションをコピー先に追加します。そのアプリケーションがすでに存在する場合には、このアプリケーションはコピーされません。

*REPLACE

ジョブのアプリケーションをコピー先に追加します。このアプリケーションがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

予定表で使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブの予定表をコピー先に追加します。この予定表がすでに存在する場合には、この予定表はコピーされません。

*REPLACE

ジョブの予定表をコピー先に追加します。この予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

休日の予定表で使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブの休日の予定表をコピー先に追加します。この休日の予定表がすでに存在する場合には、この休日の予定表はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブの休日の予定表をコピー先に追加します。この休日の予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

会計予定表で使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブの会計予定表をコピー先に追加します。会計予定表がすでに存在する場合には、この会計予定表はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブの会計予定表をコピー先に追加します。この会計予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

ライブラリー・リストで使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブのライブラリー・リストをコピー先に追加します。ライブラリー・リストがすでに存在する場合には、このライブラリー・リストはコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのライブラリー・リストをコピー先に追加します。ライブラリー・リストがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

パラメーターで使用できる値は次の通りです。

***ADD** ジョブのパラメーターをコピー先に追加します。パラメーターがすでに存在する場合には、このパラメーターはコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのパラメーターをコピー先に追加します。パラメーターがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

[トップ](#)

例

例1:新規ジョブへのジョブのコピー

```
CPYJOBJS FROMJOB(JOB02) TOJOB(JOB03) CPYDEP(*YES)
```

このコマンドはJOB02をJOB03と呼ばれる新規ジョブにコピーします。ジョブの依存関係がJOB02からJOB03にコピーされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した活動記録の表示 (DSPHSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した活動記録の表示(DSPHSTJS)コマンドを使用することにより、指定された完了状況、日付の範囲および順序に基づいて、ジョブ完了活動記録を表示または印刷することができます。ジョブ・スケジューラーを使用した活動記録の表示コマンドは、「活動記録の表示」画面を表示しますが、これにはDSPHSTJSで選択したパラメーターに基づいてジョブのジョブ情報、最終実行情報、および完了状況が示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL , *NONE	
STATUS	完了状況	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *NORMAL, *ABNORMAL, *ABNGRP, *SBMERROR, *PROCESS, *JOBQ, *CANCELLED, *RESET	オプション
PERIOD	活動記録出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, *END		
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *ALL , *LCL, *JOBCTL	オプション
SEQOPT	順序付けオプション	*DATE , *JOB, *GROUP	オプション
START	最初に表示する項目	*LAST , *FIRST	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

表示または印刷したい1つ以上のジョブの名前を指定します。その活動記録を表示または印刷したいジョブのグループおよび関連順序番号を指定することができます。画面または報告書を、ジョブ別、日付別、またはグループ別に順序付けることができます。実行キーを押すと「活動記録の表示」画面が表示され、この画面で、選択したジョブ活動記録情報に対していろいろな処置を実行することができます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** コマンド中に指定されている基準に適合するすべてのジョブのADVANCED JOB SCHEDULER活動記録を表示または印刷します。

総称*ジョブ名

総称ジョブを指定してください。たとえば、JOB*を指定すると、名前がJOBで始まるすべてのジョブが「活動記録の表示」画面に表示されることになります。

ジョブ名

表示または印刷したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** 任意のグループのメンバーであるすべてのグループのADVANCED JOB SCHEDULER 活動記録を表示または印刷します。

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

総称*グループ名

総称グループを指定してください。たとえば、GROUP*と指定すると、名前がGROUPで始まるすべてのグループが「活動記録の表示」画面に表示されることになります。

グループ名

表示または印刷したいグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***ALL** すべての順序番号が、表示または印刷したいジョブに組み込まれます。

*NONE

ジョブには順序番号がありません。

グループ順序番号

表示または印刷したいジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

トップ

完了状況(STATUS)

ADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録情報を表示または印刷するときに使用したい完了状況を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 完了状況に関係なくすべてのジョブが「活動記録の表示」画面に組み込まれます。

*NORMAL

ジョブは正常完了で終了しました。

*ABNORMAL

ジョブは異常完了しました。ジョブが異常終了した理由は、ADVANCED JOB SCHEDULERログを使用して判別できます。

***ABNGRP**

グループは異常終了しました。この完了状況は、前のジョブ・グループが正常に実行されなかったために処理されなかったグループ中のすべてのジョブに適用されます。

***SBMERROR**

ジョブは、ジョブ投入でエラーがあったために正常に実行されていません。投入エラーの例には、ジョブを投入する適切な権限をもたないユーザーがジョブを投入した場合があります。

***PROCESS**

ジョブは現在システムで処理中です。

***JOBQ**

ジョブは現在ジョブ待ち行列で処理を待機中です。

***CANCELLED**

ジョブは完了する前に取り消されました。

***RESET**

ジョブは手操作でリセットされました。

[トップ](#)

活動記録出力の期間(PERIOD)

表示または印刷のために活動記録項目が選択されている期間を指定します。このパラメーターには、それぞれ2つの要素からなる2つのリストが含まれます。

開始時刻

次の1つを使用して開始時刻（この時刻以降に活動記録項目が組み込まれる）を指定します。指定した時刻および日付より前に開始したジョブは画面または報告書に組み込まれません。

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

開始時刻

指定した開始日付に対する開始時刻を指定してください。これにより、どの活動記録項目を組み込むかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません（必要な場合は先行ゼロを使用する）。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。この場合、ユーザーのジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始日付

次の1つを使用して、その日以降に活動記録項目が作成される開始日付を指定します。指定した日付より前の実行日付は画面または報告書に組み込まれません。

***BEGIN**

活動記録項目の最初の項目から組み込まれます。

***CURRENT**

現在の日付で、指定された開始時刻と終了時刻の間（指定されている場合）の実行日付が組み込まれます。

開始日付

開始日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの開始日付は03/02/01となります。

終了時刻

次の1つを使用して終了時刻を指定します。この時刻より前の活動記録項目が組み込まれます。指定した時刻および日付より後のジョブ完了時刻は画面または報告書の活動記録項目に組み込まれません。

***AVAIL**

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

終了時刻

指定した終了日付に対する終了時刻を指定してください。これにより、どの活動記録項目を組み込むかを指示します。

終了日付

次の1つを使用して終了日付を指定します。この日付またはそれ以前に活動記録項目が作成されていなければなりません。指定した日付より後の実行日付は画面または報告書に組み込まれません。

***END** 活動記録情報の終わりまでの活動記録項目が画面または報告書に組み込まれます。

***CURRENT**

実行日付が現在日付またはそれ以前となっている活動記録項目が画面または報告書に組み込まれます。

終了日付

終了日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

表示または印刷したいジョブ活動記録を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を示します。

***ALL** ネットワーク中のすべてのシステムに対してすべてのジョブ活動記録を選択します。

***LCL** ローカル・システムに対してすべてのジョブ活動記録を選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用して、すべてのジョブ活動記録を選択します。

リモート・ロケーション名

表示または印刷したいジョブ活動記録のあるシステムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

順序付けオプション(SEQOPT)

「活動記録の表示」画面がどのように順序付けられるかを指定します。

***DATE**

「活動記録の表示」画面を日付別に順序付けます。

***JOB** 「活動記録の表示」画面をジョブ別に順序付けます。

***GROUP**

「活動記録の表示」画面をグループ別に順序付けます。

[トップ](#)

最初に表示される項目(START)

最も新しいジョブ活動記録項目を最初に表示するか、あるいは最も古いジョブ活動記録項目を最初に表示するかを指定します。ジョブ活動記録項目が別の表示画面上にある場合には、表示装置ユーザーは画面を上下に移動することによって、それを表示することができます。

***LAST** 最後の（最も新しい）ジョブ活動記録が画面の最下行に表示されます。

***FIRST**

最初の（最も古い）ジョブ活動記録が画面の最上行に表示されます。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを示します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ・スケジューラー活動記録の表示

```
DSPHSTJS  SEQOPT(*JOB)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、すべてのジョブおよびすべてのグループについてジョブ・スケジューラー活動記録報告書を印刷します。報告書はジョブ別に順序付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの表示 (DSPJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの表示(DSPJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERにセットアップした単一ジョブ、ジョブのグループ、またはすべてのジョブを表示または印刷することができます。画面または報告書はジョブ別、日付別、またはグループ別に順序付けることができます。

単一ジョブの表示を選択した場合には、「ジョブの表示」画面が表示されます。複数のジョブを表示するよう選択した場合には、「ジョブの表示」画面が表示され、この画面で、任意のジョブ・グループを個々に表示するよう選択することができます。ジョブまたはジョブのグループについての情報を印刷したい場合には、特定の区域またはすべての区域を印刷するよう選択することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, <u>*ALL</u> , *NONE	
APP	アプリケーション	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
SCDCDE	スケジュール・コード	文字値, <u>*ALL</u> , *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *TEMP, *NONE	オプション
CAL	予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
HDYCAL	休日予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
FSCCAL	会計予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*ALL</u> , *LCL, *JOBCTL	オプション
RPTDSTID	報告書配布ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *JOBCTL, *JOBBD, *SYSVAL, *NONE	オプション
STATUS	ジョブ状況	<u>*ALL</u> , *READY, *DEPW, *HELD, *OMIT, *PROCESS, *JOBQ, *SAVED	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*ALL</u> , *NONE, *GENERIC*	オプション
CMD	コマンド要求	文字値, <u>*ALL</u> , *NONE, *GENERIC*	オプション
SEQ	順序	<u>*JOB</u> , *DATE, *GROUP	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	<u>*BASIC</u> , *FULL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
AREA	区域	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *JOBDFN, *CMD, *AUT, *LDA, *DOC, *DEP	オプション

トップ

ジョブ項目(JOB)

単一ジョブ、ジョブの総称グループ、またはすべてのジョブを表示または印刷したいことを指定します。総称グループをもつ単一ジョブ、単一グループをもつすべてのジョブ、などと指定することができます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** すべてのジョブを表示または印刷します。

総称*ジョブ名

表示または印刷したいジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

ジョブ名

表示または印刷したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** 指定された1つ以上のジョブがそのメンバーとなるすべてのグループが表示または印刷されます。

*NONE

1つ以上のジョブと関連したグループはありません。

総称*グループ名

表示または印刷したいグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

グループ名

表示または印刷したい1つ以上のジョブが入っているグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***ALL** 指定した1つ以上のグループのすべての順序番号が表示または印刷されます。

*NONE

このジョブと関連した順序番号はありません。

グループ順序番号

表示または印刷したい1つ以上のグループの中のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

トップ

アプリケーション(APP)

表示または印刷したいアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーション項目が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブはアプリケーションに割り当てられていません。

総称 *アプリケーション名

アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

アプリケーション名

表示または印刷したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

トップ

スケジュール・コード(SCDCDE)

表示または印刷したい1つ以上のジョブのスケジュール・コードまたはスケジュール名を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのスケジュール・コードが画面または報告書に表示されます。

***DAILY**

表示または印刷したいジョブは、*DAILYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***CALENDAR**

表示または印刷したいジョブは、*CALENDARスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***DATE**

表示または印刷したいジョブは、*DATEスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***DAY** 表示または印刷したいジョブは、*DAYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***NUMDAY**

表示または印刷したいジョブは、*NUMDAYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***MINUTES**

表示または印刷したいジョブは、*MINUTESスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***ONCE**

表示または印刷したいジョブは、*ONCEスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***MONTHEND**

表示または印刷したいジョブは、*MONTHENDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FIRST**

表示または印刷したいジョブは、*FIRSTスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***SECOND**

表示または印刷したいジョブは、*SECONDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***THIRD**

表示または印刷したいジョブは、*THIRDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FOURTH**

表示または印刷したいジョブは、*FOURTHスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FIFTH**

表示または印刷したいジョブは、*FIFTHスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。月の中に5番目のオカレンスがない場合には、ジョブは実行されずに、次に月の中に選択された日の5番目のオカレンスのあるときに実行されるようにスケジュールされます。

***LAST** 表示または印刷したいジョブは、*LASTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

表示または印刷したいジョブは、*FIRSTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***LASTWRK**

表示または印刷したいジョブは、*LASTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***ALTERNATE**

表示または印刷したいジョブは、*ALTERNATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***TEMP**

表示または印刷したいジョブは一時的なジョブであり、SBMJOBJSコマンドの処理の結果として作成されます。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバーとするか、先行ジョブの実行を待機中のジョブとするか、あるいはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されていたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

スケジュール

処理したい1つ以上のジョブは、指定されたスケジュールまたは指定のスケジュールに見つかるスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールされます。たとえば、ユーザー定義のスケジュールMONTHLY1はスケジュール・コード*DAYを使用しています。MONTHLY1を指定することにより、スケジュールとしてMONTHLY1あるいはスケジュール・コードとして*DAYが使用されているジョブのすべてがリストされることとなります。

トップ

予定表(CAL)

表示または印刷したい予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての予定表項目が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

表示または印刷したいジョブは予定表を使用しません。

総称 * 予定表名

予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な予定表名と見なします。

予定表名

表示または印刷したい予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

休日予定表(HDYCAL)

表示または印刷したい休日予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての休日予定表が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブには休日予定表は割り当てられません。

総称 * 休日予定表名

休日予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる休日予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な休日予定表名と見なします。

休日予定表名

表示または印刷したい休日予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

会計予定表(FSCCAL)

表示または印刷したい会計予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての会計予定表が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブには会計予定表は割り当てられません。

総称 * 会計予定表名

会計予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる会計予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称(接頭部)名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全な会計予定表名と見なします。

会計予定表名

表示または印刷したい会計予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

表示または印刷したいジョブ項目を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク内のすべてのシステムのすべてのジョブ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのジョブ項目を選択します。

*JOBCTL

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用するすべてのジョブ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

表示または印刷したいジョブ項目のあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

表示または印刷したい報告書配布名のIDを指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての報告書配布IDが画面または報告書に表示されます。

*NONE

報告書配布IDをもつジョブを画面または報告書に組み込みません。

総称 * 報告書配布ID

報告書配布IDは総称です。たとえば、"ACT*"を指定することによって、その報告書配布IDが文字"ACT"で始まるすべてのジョブが表示または報告書に組み込まれることとなります。

報告書配布ID

表示または印刷したい報告書配布IDを指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト(LIBL)

表示または印刷に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リスト名を選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

***ALL** ライブラリー・リストに関係なく、すべてのジョブが画面または報告書に組み込まれます。

***JOBCTL**

そのライブラリー・リストが*JOBCTLであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***JOB**

そのライブラリー・リストが*JOBであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***SYSVAL**

そのライブラリー・リストが*SYSVALであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***NONE**

そのライブラリー・リストが*NONEであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

総称 * **ライブラリー・リスト名**

ライブラリー・リスト名は総称です。たとえば、"LIB*"を指定することによって、そのライブラリー・リストが文字"LIB"で始まるすべてのジョブが表示または報告書に組み込まれることとなります。

ライブラリー・リスト名

画面または報告書に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定します。

トップ

ジョブ状況(STATUS)

表示または印刷したいジョブの状況コードを指定します。

***ALL** 状況に関係なくすべてのジョブを画面または報告書に組み込みます。

***READY**

ジョブ状況が*READYとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況*READYのジョブは、それらの次のスケジュール日時に処理されるのを待機しているジョブです。

***DEPW**

そのジョブ状況が*DEPWであるジョブだけが表示または報告書に組み込まれます。ジョブ状況*DEPWのジョブは、他のジョブまたはイベントに基づいて処理されるのを待機しているジョブです。

***HELD**

ジョブ状況が*HELDとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況が*HELDとなっているジョブとは、保留されているジョブで、解放されるまでは処理されないジョブのことです。

***PROCESS**

ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブとは、表示または報告の時点で処理中のジョブのことです。

***JOBQ**

ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブとは、表示または報告の時点でジョブ待ち行列上にあるジョブのことです。

***SAVED**

ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブとは、将来の使用のために保管されている1回限りのジョブのことです。

トップ

テキスト(TEXT)

表示または印刷したいジョブに関連したテキストを指定します。任意の文字ストリングを検索することができ、テキスト中にその文字ストリングが入っているジョブ・スケジュール項目だけが画面または報告書に組み込まれます。

***ALL** テキストに関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を表示または報告します。

***NONE**

テキストとしてブランクまたは*NONEが入っているすべてのジョブ・スケジュール項目を表示または報告します。

総称 * テキスト

テキストは総称です。たとえば"THE JOB*"と指定すると、"THE JOB"という語で始まるすべてのテキストが画面または報告書に組み込まれることとなります。

テキスト

指定されたテキスト・ストリングをもつすべてのジョブ・スケジュール項目を表示したいことを指定します。

トップ

コマンド要求(CMD)

表示または印刷したいジョブのコマンド要求を指定します。任意のコマンド要求、コマンド文字のストリング、またはコマンド要求をもたない画面項目を組み込むことができます。

***ALL** コマンド要求の有無に関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を表示または印刷します。

***NONE**

コマンド要求をもたないジョブ・スケジュール項目を表示または印刷します。

総称 * コマンド要求

総称コマンド情報を指定します。たとえば、"CALL PG*"と指定すると、"CALL PG"というストリングで始まるすべてのコマンド要求が画面に組み込まれることとなります。

コマンド要求

コマンド要求が指定されているすべてのジョブ・スケジュール項目を表示または印刷したいことを指定します。

トップ

順序(SEQ)

選択したジョブ・スケジュール項目を表示または報告したい順序を指定します。

***JOB** ジョブ・スケジュール項目をジョブの順序で表示または報告します。

***DATE**

ジョブ・スケジュール項目を日付の順序で表示または報告します。

***GROUP**

ジョブ・スケジュール項目をグループの順序で表示または報告します。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを示します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細(DETAIL)

印刷出力用に使用される形式を指定します。

***BASIC**

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

***FULL** 各項目の詳細が拡大形式で印刷されます。

[トップ](#)

区域(AREA)

詳細(DETAIL)パラメーターに***FULL**を指定している場合に、報告書に組み込みたい1つ以上のジョブについての情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 1つ以上のジョブについてのすべての情報が画面または報告書に組み込まれます。

***JOBDFN**

ジョブ定義情報が画面または報告書に組み込まれます。

***CMD** コマンド情報が画面または報告書に組み込まれます。

***LDA** ローカル・データ域情報が画面または報告書に組み込まれます。

***DOC** 文書情報が画面または報告書に組み込まれます。

***DEP** 従属関係情報が画面または報告書に組み込まれます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの表示

```
DSPJOBJS JOB(JOB02) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドはジョブJOB02に関する情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラーのログ表示 (DSPLOGJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーのログの表示(DSPLOGJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのログを表示または印刷することができます。ADVANCED JOB SCHEDULERのログは、ADVANCED JOB SCHEDULERが処理の結果として作成したメッセージを日付および時刻別に表示したものです。DSPLOGJSコマンドを使用することにより、ログのすべてまたは一部を表示または印刷することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	<u>*ALL</u> , *RUN, *SUBMIT, *MAINT, *EMAIL	オプション、位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*CURRENT</u> , *END	
SEV	重大度	0-99, <u>*ALL</u>	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	<u>*BASIC</u> , *FULL	オプション
JOB	ジョブ項目	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, <u>*ALL</u> , *NONE	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*ALL</u> , *LCL	オプション
USER	ユーザー	名前, <u>*ALL</u>	オプション
MSGID	メッセージID	名前, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

タイプ(TYPE)

ログ項目を検査したい項目のタイプ。

*ALL すべてのログ項目を表示のために選択します。

***RUN** ジョブ実行項目だけを表示のために選択します。

***SUBMIT**

ジョブ投入ログ項目だけを表示のために選択します。

***MAINT**

保守ログ項目だけを表示のために選択します。

***EMAIL**

電子メールと関連したログ項目だけを表示のために選択します。

[トップ](#)

ログ出力の期間(PERIOD)

表示または報告のためにログ項目が選択されている期間を指定します。このパラメーターには、それぞれ2つの要素からなる2つのリストが含まれます。

開始時刻

次の1つを使用して作成開始時刻を指定し、この時刻以降にログ項目が組み込まれることとなります。指定した時刻および日付より前に作成されたログ項目は画面または報告書に組み込まれません。

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

開始時刻

指定した開始日付の開始時刻を指定してください。これにより、どのログ項目が組み込まれるかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません(必要な場合は先行ゼロを使用する)。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。この場合、ユーザーのジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始日付

次の1つを使用して開始日付を指定します。この日付以降にログ項目が作成されます。指定した日付より前の項目は画面または報告書に組み込まれません。

***CURRENT**

現在の作成日付で、指定された開始時刻および終了時刻の間(指定されている場合)にあるログ項目が組み込まれます。

***BEGIN**

ログ項目の最初のものから組み込まれます。

開始日付

開始日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/02/01となります。

終了時刻

次の1つを使用して終了時刻を指定し、この時刻以前のログ項目が組み込まれることになります。指定した時刻および日付より後に作成された項目は画面または報告書のログ項目に組み込まれません。

***AVAIL**

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

終了時刻

指定された終了日付の終了時刻を指定してください。これにより、どのログ項目が組み込まれるかを示します。

終了日付

次の1つを使用して終了日付を指定し、この日付以前のログ項目が作成されなければなりません。指定した日付より後に作成されたログ項目は画面または報告書に組み込まれません。

***CURRENT**

日付が現在日付またはそれ以前となっているログ項目が画面または報告書に組み込まれます。

***END** ログ情報の終わりまでのログ項目が画面または報告書に組み込まれます。

終了日付

終了日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

重大度(SEV)

報告書／画面に組み込みたいメッセージ重大度レベルを指定します。たとえば、重大度レベル30を指定した場合には、重大度レベルが30およびそれ以上のすべてのメッセージが組み込まれます。重大度レベルは0-99の範囲で指定することができます。

***ALL** すべての重大度レベルが画面または報告書に組み込まれます。

重大度レベル

画面または報告書に組み込みたいログ項目に関連した重大度レベル。

[トップ](#)

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを示します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細(DETAIL)

印刷出力用に使用される形式を指定します。

***BASIC**

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

***FULL** 各項目の詳細が拡大形式で印刷されます。

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

表示または印刷したいログ項目のあるジョブの名前を指定します。すべてのジョブについて1つのジョブを指定しなければなりません。代わりに、ジョブが属しているグループを、そのグループ内のジョブの順序番号とともに指定することもできます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** ログ項目をもつすべてのジョブが表示されます。

***NONE**

ログ項目のないジョブが表示されます。

総称 * ジョブ名

表示したいログ項目のあるジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後アスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

ジョブ名

表示したいログ項目のあるジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** 指定した1つ以上のジョブがそのメンバーとなっているすべてのグループが表示されます。

***NONE**

ジョブに関連したグループはありません。

総称 * グループ名

表示したいログ項目のあるグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後アスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

グループ名

表示したいログ項目のあるジョブが入っているグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***ALL** ログ項目のあるこのグループに属しているすべてのジョブ順序が表示されます。

*NONE

このジョブと関連した順序番号はありません。

グループ順序番号

表示したいログ項目のあるグループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

表示したいログ項目を作成したシステムのリモート・ロケーション名およびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク中のすべてのシステムのすべてのログ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのログ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

表示したいログ項目のあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

ユーザー(USER)

表示したいログ項目のユーザー・プロファイルの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルを画面または報告書に組み込みます。

ユーザー名

画面または報告書にそのログ項目を組み込みたいユーザー・プロファイルを指定してください。

[トップ](#)

メッセージID (MSGID)

表示したいログ項目のメッセージIDを指定します。

***ALL** すべてのメッセージIDを画面または報告書に組み込みます。

メッセージID

画面または報告書にそのログ項目を組み込みたいメッセージIDを指定してください。

[トップ](#)

例

```
DSPLOGJS PERIOD((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))  
          JOB(JOB02)
```

このコマンドは、JOB02についてログの先頭から終わりまでジョブ・スケジューラー・ログ項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラー終了 (ENDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーの終了(ENDJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・モニターを終了したり、あるいはSTRJSコマンドを使用して開始したソフトウェア・アプリケーションのジョブ情報の収集を停止することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*MONITOR</u> , *CAPTURE	オプション、位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *ALL, <u>*USRPRF</u>	オプション

[トップ](#)

オプション(OPTION)

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを終了するのか、あるいはジョブ情報の収集を停止するのかを指定します。

*MONITOR

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを終了します。

*CAPTURE

アプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を停止します。

[トップ](#)

データ・ライブラリー(DTALIB)

ADVANCED JOB SCHEDULERのモニターを終了したいデータ・ライブラリーを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*USRPRF

現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたデータ・ライブラリーが使用されます。

***ALL** 既存のすべてのデータ・ライブラリーが使用されます。

データ・ライブラリー名

使用したいデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

例

ENDJS OPTION(*MONITOR)

このコマンドはジョブ・スケジューラー・モニターを終了します。モニターは、次回ジョブ・スケジューラーの開始(STRJS)コマンドを実行するまで非活動状態のままです。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JSを使用したジョブの保留 (HLDJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの保留(HLDJOBJS)コマンドを使用することにより、指定するジョブを保留することができます。実行キーを押すと、選択したジョブが保留されたことを確認するメッセージが表示されます。ジョブでジョブ・スケジューラーを使用したジョブの解放(RLSJOBJS)コマンドが処理されるか、あるいは「ジョブの処理」画面でジョブに対してオプション6 (リリース/リセット) が選択されるまでは、ジョブは保留されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	

トップ

ジョブ項目(JOB)

保留したいジョブの名前を指定します。

ジョブを指定しなければなりません。任意に、そのジョブが属しているグループとそのジョブの対応順序番号を指定することもできます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

保留したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

グループ名

ジョブが属するグループの名前を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

*NONE

このジョブに割り当てられた順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

HLDJOBJS JOB(JOB02)

このコマンドによってジョブJOB02は保留されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のスケジュールの印刷 (PRTSCDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したスケジュールの印刷(PRTSCDJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERによってどのジョブが投入されるか、また何時投入されるかの予測を指定した日数に基づいて報告書を印刷することができます。保留されているジョブを組み込むことも除外することもできます。

注: スケジュール・コード*MINUTESを使用すると、PRTSCDJSコマンドは長時間の実行が可能となります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NBRDAY	日数	1-365, <u>30</u> , *NEXT, *SELECT	オプション、位置 1
PAGADV	ページ前進	*YES, *NO	オプション
INCHLDJOB	保留中ジョブの組み込み	*YES, *NO	オプション
SEQ	順序	*DATE, *JOBQ	オプション
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT	

[トップ](#)

日数(NBRDAY)

ADVANCED JOB SCHEDULERによって投入がスケジュールされるジョブを予測したい日数を指定します。日数、翌日のみ、または日数の範囲を指定することができます。省略時の日数は30です。

30 予測により、次の30日が組み込まれます。

*NEXT

翌日のみの予測となります。

*SELECT

*SELECTを指定する場合には、予測に組み込む日付の範囲をSLTDATEパラメーターに追加することができます。

日数 予測に組み込みたい日数を指定してください。

[トップ](#)

ページの前進(PAGADV)

指定する日ごとにページを前進させるかどうかを指定します。

***YES** 予測されたジョブの毎日の終わりに、用紙が新しいページの再上部に前進するように、報告書が印刷されます。

***NO** ページが満杯になった時には改ページして連続的に報告書が印刷されます。

[トップ](#)

保留ジョブの組み込み(INCHLDJOB)

保留されているジョブを予測報告書に組み込むかどうかを指定します。

***NO** 保留されているジョブは報告書に組み込まれません。

***YES** 保留されているジョブが報告書に組み込まれます。

[トップ](#)

順序(SEQ)

予測報告書をソートしたい順序を指定します。

***DATE**

報告書を日付順にします。

***JOBQ**

報告書をジョブ待ち行列によって順序付けします。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

予測報告書の印刷時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日付**は、表示される予測情報の日付の範囲の開始時点であり、**終了日付**は終了時点です。

開始日付として指定できる値は次の通りです：

***CURRENT**

日付の範囲の開始日付として現在の日付を使用します。

開始日付

日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

終了日付として指定できる値は次の通りです：

***CURRENT**

現在の日付が日付の範囲の終了日付となります。

終了日付

日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

例

```
PRTSCDJS  NBRDAY(5)  PAGEADV(*NO)  INCHLDJOB(*YES)
```

このコマンドは、次の5日間に実行されるジョブについてジョブ・スケジュール報告書を印刷します。それぞれの日ごとに独立したページはなく、報告書には保留中のジョブも含まれます。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JSを使用したジョブの解放 (RLSJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの解放(RLSJOBJS)コマンドを使用することにより、指定するジョブを解放することができます。実行キーを押すと、選択したジョブが解放されたことを確認するメッセージが表示されます。ジョブは、ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの保留(HLDJOBJS)コマンドが出されるか、あるいは「ジョブの処理」画面でオプション3（保留）が選択されるまでは、解放されたままとなります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	

トップ

ジョブ項目(JOB)

解放したいジョブの名前を指定します。

ジョブを指定しなければなりません。任意に、そのジョブが属しているグループとそのジョブの対応順序番号を指定することもできます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

解放したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

グループ名

ジョブが属するグループの名前を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

*NONE

このジョブに割り当てられた順序はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

```
RLSJOBJS JOB(JOB02)
```

このコマンドは、前にHLDJOBJSコマンドを使用して保留されたジョブJOB02を解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した活動記録の除去 (RMVHSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した活動記録の除去(RMVHSTJS)コマンドにより、保持または除去したい活動記録の量を指定することによって、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ活動記録ファイルから活動記録を除去することができます。ジョブ活動記録のオカレンスの数を記録するかどうかを指定したり、あるいは指定する日付の範囲に基づいて活動記録項目を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMVTYPE	除去タイプ	<u>*OCCUR</u> , *DAYS	オプション、位置 1
NBROCCUR	発生回数	1-999, <u>180</u>	オプション
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>180</u> , *CURRENT, *END	

[トップ](#)

除去タイプ(RMVTYPE)

ADVANCED JOB SCHEDULERのログから項目を選択する方法を指定します。

*OCCUR

活動記録ファイル項目は、オカレンスの数(NBROCCUR)パラメーターに指定されているオカレンスの数に基づいて保持されます。

*DAYS

活動記録ファイル項目は、開始日付および終了日付フィールドに指定されている日付の範囲に基づいて除去されます。

[トップ](#)

オカレンスの数(NBROCCUR)

活動記録ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数を指定します。オカレンスの番号は最も古い（最も早い日付の）オカレンスから始まり、最新のものと進みます。オカレンスの数は1-999の範囲とすることができます。

180 ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数は180です。

オカレンスの数

ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数を指定してください。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ活動記録を除去する時に使用する日付の範囲を指定します。開始日付が、除去されるADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録の開始時点で、終了日付が終了時点です。

開始日付として指定できる値は次の通りです：

***BEGIN**

日付の範囲の開始日付として、ファイル中の最も早い日付のADVANCED JOB SCHEDULER活動記録ファイル日付を使用します。

***CURRENT**

日付の範囲の開始日付として現在の日付を使用します。

開始日付

日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

NNNNN

日付の範囲の開始日付にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/12/01となります。

終了日付として指定できる値は次の通りです：

180 保存される活動記録の日数は180となります。

***CURRENT**

現在の日付が日付の範囲の終了日付となります。

***END** ADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録ファイルの中の最新の日付が、日付の範囲の終了日付として使用されます。

終了日付

日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

NNNNN

日付の範囲の終了日付にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

例

```
RMVHSTJS  RMVTYPE(*DAYS)  SLTDATE(*BEGIN 60)
```

このコマンドは、60日より古い活動記録情報を除去します。直前の60日間の活動記録情報が保持されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの除去 (RMVJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの除去(RMVJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・スケジュールからジョブまたはジョブのグループを除去することができます。1つ以上のジョブはジョブのグループに属することができます。

注: 順序1のジョブ・グループを除去するには、先にすべての従属ジョブ・グループを除去しておかなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	

トップ

ジョブ項目(JOB)

除去したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。単一のジョブ、総称ジョブ名を指定するか、あるいはすべてのジョブでは特殊値*ALLを使用することができます。ジョブ仕様は、そのグループ内のジョブの順序番号とともに、そのジョブが属しているグループと組み合わせて使用することができます。また、総称グループ名および順序番号も指定することができます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** グループおよび順序番号仕様を満たすすべてのジョブを除去します。

総称*ジョブ名

ジョブは総称です。たとえば、JOB*を指定することによって、名前がJOBで始まり、そのグループおよび順序番号の仕様を満たすすべてのジョブがADVANCED JOB SCHEDULERから除去されることとなります。

ジョブ名

除去したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブはグループに割り当てられていません。

***ALL** 任意のグループに属するすべての指定ジョブを除去します。

総称 *グループ名

グループは総称です。たとえば、GROUP*を指定することによって、GROUPで始まり、その順序番号仕様を満たすすべてのグループがADVANCED JOB SCHEDULERから除去されることとなります。

グループ名

除去するジョブが属しているグループのユーザー定義名を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

***ALL** ジョブおよびグループ仕様を満たす順序番号のジョブが組み込まれます。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

```
RMVJOBJS JOB(JOB02 ACCTG 11)
```

このコマンドは、グループACCTG内の順序番号が11のジョブJOB02を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSからのログ項目の除去 (RMVLOGEJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーからのジョブ項目の除去(RMVLOGEJS)コマンドを使用することにより、指定する日付の範囲に基づいてADVANCED JOB SCHEDULERのログを消去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*ALL , *RUN, *SUBMIT, *MAINT, *EMAIL	オプション、位置 1
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了日	文字値, 180 , *CURRENT, *END	

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

ADVANCED JOB SCHEDULERのログから消去したい項目のタイプを指定します。項目のタイプの例としては、実行、投入、保守などがあります。

***ALL** 指定した日付の範囲内のすべてのログ項目を消去するように選択します。

***RUN** 指定した日付の範囲内の、実行処理時にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***SUBMIT**

指定した日付の範囲内の、投入処理時にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***MAINT**

指定した日付の範囲内の、保守処理時にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***EMAIL**

指定した日付の範囲内の、電子メール処理時にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

[トップ](#)

日付の選択(SLTDATE)

ADVANCED JOB SCHEDULERのログを消去する時に使用する日付の範囲を指定します。**開始日付**が、消去されるADVANCED JOB SCHEDULERのログの開始時点であり、**終了日付**が終了日です。

開始日付として指定できる値は次の通りです。

***BEGIN**

ファイル中の最も早いADVANCED JOB SCHEDULERのログ日付を、日付の範囲の開始日付として使用します。

***CURRENT**

日付の範囲の開始日付として現在の日付を使用します。

開始日付

日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

NNNNN

日付の範囲の開始日付にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/02/01となります。

終了日付として指定できる値は次の通りです。

180 保持されるログ項目の日数は180となります。

***CURRENT**

現在の日付が日付の範囲の終了日付となります。

***END** 使用するADVANCED JOB SCHEDULERのログの中の最新の日付を、日付の範囲の終了日付として使用します。

終了日付

日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

NNNNN

日付の範囲の終わりとして現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

例

```
RMVLOGEJS TYPE(*ALL) SLTDATE('3/12/99' '4/12/99')
```

このコマンドは、1999年3月12日から1999年4月12日までの期間のすべてのログ項目を除去します。この例では、SLTDATEはMM/DD/YY形式で表されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブ名前変更 (RNMJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの名前変更(RNMJOBJS)コマンドを使用することにより、ジョブを名前変更することができます。ジョブを名前変更した後で、関連パラメーターの一部またはすべてを修正および変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
NEWJOB	新規ジョブ項目	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前, *SAME	
	要素 2: グループ	名前, *SAME, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *SAME, *NONE	

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

名前変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブについて1つのジョブを指定しなければなりません。代りに、ジョブが属しているグループを、そのグループ内のジョブの順序番号とともに指定することもできます。

注: 順序1のジョブ・グループを名前変更するためには、そのグループに従属ジョブが存在してはいけません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

名前変更したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

新しいジョブ項目(NEWJOB)

ジョブ(JOB)JOBパラメーターに指定されているジョブを名前変更した結果として作成するジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブについて1つのジョブを指定しなければなりません。代わりに、ジョブが属しているグループを、そのグループ内のジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30,など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

新しいジョブとして指定できる値は次の通りです：

***SAME**

ジョブの現行の名前は変更されません。

ジョブ名

名前変更するジョブをもとにして作成したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***SAME**

グループの現行の名前は変更されません。

***NONE**

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

ジョブの現行の順序番号は変更されません。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

RNMJOBJS JOB(JOB02) NEWJOB(JOB04)

このコマンドはジョブJOB02をJOB04に名前変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

コンソール・コマンドの投入 (SBMCMDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コンソール・コマンドの投入(SBMCMDJS)コマンドによって、システム・コンソールにコマンドを投入することができます。SBMCMDJSコマンドはADVANCED JOB SCHEDULERのコンソール・モニター機能と一緒に作動します。コンソール・モニター機能が活動状態の場合に、コマンド要求が処理されます。コンソール・モニター機能が活動状態でない場合には、コンソール・モニター機能が開始されるまで、要求は処理されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド要求	コマンド・ストリング	オプション、位置 1

[トップ](#)

コマンド要求(CMD)

処理したいコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。オブジェクト存在は検査されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブの投入 (SBMJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの投入(SBMJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERを介してバッチ・ジョブを投入することができます。投入の時刻および日付、パラメーター情報、およびすべての投入情報を指定することができます。

グループ内からジョブを投入しても、そのグループは開始されません。投入するように選択したジョブが実行されるだけです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
TIME	投入時刻	0-2400, *IMMED, *SCHED	オプション
DATE	投入日付	文字値, *CURRENT	オプション
STRSEQ	開始順序	整数, *FIRST	オプション
ENDSEQ	終了順序	整数, *LAST	オプション
CHKDEP	従属関係の検査	*YES, *NO	オプション
UPDDEP	従属関係の更新	*NO, *YES, *GRP	オプション
PARM	パラメーター	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パラメーター名	名前	
	要素 2: パラメーター・データ	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *SAME, *JOBCTL, *LCL	オプション
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, *SAME, *NOMAX	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *COMP	

キーワード	記述	選択項目	注
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, *JOBCTL, *SAME	
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *SAME, *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*SAME, *JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHL, *NOSBM	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOB	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOB	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOB	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *JOB	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME, *JOBCTL, *BLANK, *JOB, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *SAME, *JOBCTL, *JOB, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME, *JOBCTL, *JOB	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME, *JOBCTL, *JOB	
	要素 3: テキスト	*SAME, *JOBCTL, *JOB, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*SAME, *JOBCTL, *JOB, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*SAME, *JOBCTL, *JOB, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*SAME, *JOBCTL, *JOB, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB, *USRPRF, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *SAME , *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLASPGRP	初期ASPグループ	名前, *SAME , *JOBCTL, *CURRENT, *JOB, *NONE	オプション

トップ

ジョブ項目(JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を示します。すべてのジョブにジョブ名を指定しなければなりません。さらに、そのジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30, など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

トップ

投入時刻(TIME)

このジョブを投入したい時刻を指定します。ジョブは、指定した時刻に投入したり、直ちに投入したり、あるいは次の予定時刻に投入することができます。時刻は時、分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001 - 2400（深夜）とします。

***SCHED**

ジョブは次のスケジュール時刻にADVANCED JOB SCHEDULERによって投入されます。

***IMMED**

ジョブは直ちに投入されます。

注: これは、1より大きい順序をもつすべてのジョブ・グループの場合の省略時の値となります。

投入時刻

ADVANCED JOB SCHEDULERによってジョブが投入される時刻を指定してください。

投入日付(DATE)

このジョブを投入したい日付を指定します。日付はジョブの日付形式で指定します。

***CURRENT**

ジョブは、ADVANCED JOB SCHEDULERによって現在日付で、**予定時刻(TIME)**パラメーターに指定されている時刻に投入されます。

投入日付

ADVANCED JOB SCHEDULERによってジョブを投入したい日付をジョブの日付形式で指定してください。

トップ

開始順序(STRSEQ)

投入するジョブの開始コマンド順序番号を指定します。

***FIRST**

投入するジョブの最初のコマンド順序番号で開始します。

順序番号

ジョブ内の開始したいコマンドの順序番号を指定してください。

トップ

終了順序(ENDSEQ)

投入するジョブの終了コマンド順序番号を指定します。

***LAST** 投入するジョブの最終コマンド順序番号で終了します。

順序番号

ジョブ内の終了したいコマンドの順序番号を指定してください。

トップ

従属関係の検査(CHKDEP)

ジョブの投入が可能となる前に、資源および活動状態の従属関係を検査する必要があるかどうかを指定します。

***YES** ジョブの投入時に資源および活動状態の従属関係を検査します。ジョブを投入する前に、その従属性を満たしていなければなりません。

***NO** ジョブの投入時に資源および活動状態の従属関係を検査しません。ジョブを投入する前に、その従属性を満たす必要はありません。

トップ

従属関係の更新(UPDDEP)

ジョブの完了後に、元のジョブと関連した従属関係を更新する必要があるかどうかを指定します。

***NO** ジョブの完了後に、従属関係を更新しません。

***YES** ジョブの完了後に、従属関係を更新します。

***GRP** ジョブの完了後に、従属関係を更新します。ジョブがグループの一部である場合は、グループ処理を次のジョブから続けます。これはJS (STRGRPJS)コマンドを使用したグループ開始と同等です。

トップ

パラメーター名

投入されたジョブで使用したいパラメーターの名前およびパラメーター・データを指定します。指定するパラメーターは、ADVANCED JOB SCHEDULERに定義されているものでなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

パラメーター・データ・フィールドへの入力では、任意の文字が有効です。妥当性は、プログラム内のパラメーターの使用範囲まで、またはジョブの投入時にはADVANCED JOB SCHEDULERジョブの使用範囲まで検査されます。パラメーター・データの文字数は**パラメーター長**フィールドに入れられている長さに対応していなければなりません。**パラメーター長**フィールドより短く入力されたデータは、そのパラメーターの長さまでブランクを埋め込んだデータを渡します。先行ブランクおよび組み込みブランクは、入力された通り正確にユーザーの要求データのパラメーターに渡されます。パラメーター・フィールドに指定された長さを超えて入力したパラメーター・データは切り捨てられます。パラメーター・データの中で使用するアポストロフィ(')は対で使用しなければなりません。テキストおよびアポストロフィを受け入れることができるフィールドには、アポストロフィが必要です。アポストロフィを1つしか使用しなかった場合は、そのパラメーターは「パラメーター・データ内の引用符(')は対でなければならない」というエラーで拒否されます。続行する前にこのエラーを訂正しなければなりません。

パラメーター・データ フィールドで使用できる特殊値があります。これらの特殊値の一部は日付計算に使用されます。たとえば、日付の計算で使用される特殊値の1つは*QMDYです。**Q**はシステム日付を示し、**M**は月を示し、**D**は日を示し、**Y**は年を示します。**Q**で始まる特殊値が表示される時には常に、計算は現行のシステム日付に基づいて行われます。特殊値が**A**で始まる場合には、その計算は実行要求日付に基づいて行われます。

たとえば、*QMDY(D-33,M+1,D+5W)として指定されたパラメーター・データは、現行のシステム日付が計算の開始点であることを示します。次に、現行のシステム日付から33日を減算し、その月に1を加算し、前日(D-33)の計算から計算した日付に5の作業日数を加算します。結果の日付は月、日、年の形式で示されます。

もう1つの例は*QMDY(M+1,D=1)です。これは、現行のシステム日付に基づいて、月に1を加算し、その日を月の最初の日として設定することを示します。結果の日付は月、日、年の形式で示されます。

一部の特殊値にあるもう1つの文字は**C**で、これは世紀標識であり、0は20世紀であり、1は21世紀です。

パラメーター名として指定できる値は次の通りです：

***NONE**

投入するジョブは、ここでパラメーターを入力する必要はありません。

パラメーター名

このジョブで使用したいパラメーターを指定してください。

パラメーター・データとして指定できる値は次の通りです：

- *RQS** システム制御に指定されたメッセージ待ち行列には、このパラメーターの値を要求するためのメッセージが送られます。
- *ADD** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表現される日です。
- *AMM** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表現される月です。
- *AYY** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表現される年です。
- *AYMD**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は年、月、日の形式で、6桁の値となります。
- *AMDY**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は月、日、年の形式で、6桁の値となります。
- *ADMY**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は日、月、年の形式で、6桁の値となります。
- *AYM** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は年、月の形式で、4桁の値となります。
- *AMY** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は月、年の形式で、4桁の値となります。
- *AMYY**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は月、年の形式で、6桁の値となります。年は4桁の値です。
- *AYYM**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は年、月の形式で、6桁の値となります。年は4桁の値です。
- *AYYMD**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は年、月、日の形式で、8桁の値となります。年は4桁の値です。
- *AMDYY**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は月、日、年の形式で、8桁の値となります。年は4桁の値です。
- *ADMY**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は日、月、年の形式で、8桁の値となります。年は4桁の値です。
- *ACYMD**
パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は世紀、年、月、日の形式で、7桁の値となります。世紀は1桁の値であり、20世紀は0となり、21世紀は1となります。

***ACMDY**

パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は世紀, 月, 日, 年の形式で, 7桁の値となります。世紀は1桁の値であり, 20世紀は0となり, 21世紀は1となります。

***ACDMY**

パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は世紀, 日, 月, 年の形式で, 7桁の値となります。世紀は1桁の値であり, 20世紀は0となり, 21世紀は1となります。

***AISO** パラメーターの計算は実行要求日付に基づいて行われます。戻される値は, ハイフンで区切られた国際標準化機構(ISO)日付形式です。形式は4桁の年と月日です(YYYY-MM-DD)。

***QDD** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表される日です。

***QMM** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表される月です。

***QYY** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は2桁の値で表される年です。

***QYMD**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は年, 月, 日の形式で, 6桁の値となります。

***QMDY**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は月, 日, 年の形式で, 6桁の値となります。

***QDMY**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は日, 月, 年の形式で, 6桁の値となります。

***QYM** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は年, 月の形式で, 4桁の値となります。

***QMY** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は月, 年の形式で, 4桁の値となります。

***QMYY**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は月, 年の形式で, 6桁の値となります。年は4桁の値です。

***QYYM**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は年, 月の形式で, 6桁の値となります。年は4桁の値です。

***QYYMD**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は年, 月, 日の形式で, 8桁の値となります。年は4桁の値です。

***QMDYY**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は月, 日, 年の形式で, 8桁の値となります。年は4桁の値です。

***QDMYY**

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は日, 月, 年の形式で, 8桁の値となります。年は4桁の値です。

*QCYMD

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は世紀、年、月、日の形式で、7桁の値となります。世紀は1桁の値であり、20世紀は0となり、21世紀は1となります。

*QCMDY

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は世紀、月、日、年の形式で、7桁の値となります。世紀は1桁の値であり、20世紀は0となり、21世紀は1となります。

*QCDMY

パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は世紀、日、月、年の形式で、7桁の値となります。世紀は1桁の値であり、20世紀は0となり、21世紀は1となります。

***QISO** パラメーターの計算は現在のシステム日付に基づいて行われます。戻される値は、ハイフンで区切られた国際標準化機構(ISO)日付形式です。形式は4桁の年と月日です(YYYY-MM-DD)。

パラメーター・データ

パラメーター名フィールドに指定したパラメーター名に使用したいパラメーター・データを指定します。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

***LCL** ジョブをローカルISERIESで実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

最大実行時間(MAXRUN)

ジョブの最大実行時間（分数）を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*NOMAX

このジョブには最大時間はありません。

最大分数

このジョブの最大時間（分数）を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。最大分数は1-9999分の範囲とすることができます。

[トップ](#)

通知宛先（正常）(PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（正常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（正常）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが正常に完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知宛先（異常）(PGRRC PABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

通知宛先（異常）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブが異常完了した時にそのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

通知メッセージに指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御から通知メッセージが通知宛先に送られます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

通知メッセージ

このジョブが異常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

トップ

通知宛先（ジョブ開始）(PGRRC PSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: この機能をJSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドで使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

注: 通知宛先（ジョブ開始）に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度（分数）を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

通知宛先（ジョブ開始）に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

宛先名 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

開始限度に指定できる値は、次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

開始限度

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる1-999の分数を指定してください。

[トップ](#)

代替ジョブ(ALTJOB)

ジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドのプロンプトが出された時にジョブ・リストからジョブを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

代替ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***NONE**

ジョブに代替ジョブはありません。

代替ジョブ名

このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブに代替グループはありません。

グループ名

このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

グループ順序番号

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***NONE**

ジョブに報告書配布IDはありません。

報告書配布ID

このジョブと関連付けたい報告書配布IDを指定してください。

[トップ](#)

回復処置(RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取られる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数回繰り返しが無い場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初の繰り返しは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

このパラメーターは次の場合には適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留されてから解放された場合。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブはジョブ制御に指定されている回復処置を使用します。

*SBMRLS

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

*SBMHLD

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

*NOSBM

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

[トップ](#)

ジョブ記述(JOBD)

このジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ記述がこのジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

ジョブ記述名

ジョブに使用するジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ記述名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ記述名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列(JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列がこのジョブで使用されます。

***JOB**

投入されたジョブは指定のジョブ記述に指定されたジョブ待ち行列に入れられます。

ジョブ待ち行列名

投入されたジョブが入られるジョブ待ち行列の名前（ライブラリー名／ジョブ待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジョブ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ優先順位（JOBQにおける）（JOBPTY）

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブに使用されます。

スケジューリング優先順位

ジョブのスケジューリング優先順位として1-9の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

出力優先順位（OUTQにおける）（OUTPTY）

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブに使用されます。

出力優先順位

ジョブの出力の優先順位として1-9の範囲内の値を指定してください。

印刷装置(PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置の修飾名を指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブに使用されます。

印刷装置名

投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

出力待ち行列(OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。このパラメータは、出力待ち行列として*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルに対してのみ適用されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列がこのジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOB**

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

出力待ち行列名

投入されるジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前（ライブラリー名/出力待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 出力待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

出力待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー(USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBDDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

***JOBDD**

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

ユーザー名

投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

トップ

印刷テキスト(PRTTXX)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される最大30桁までのテキストを指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

印刷テキスト

各ページの最下部に印刷される文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力することができます。リスト上のテキストは、入力されたときと同じ方法で中央そろえられます。

[トップ](#)

経路指定データ(RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定するため使用されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されません。

経路指定データ

このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

[トップ](#)

現行ライブラリー(CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の現行ライブラリーが投入されたジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

***CRTDFT**

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

現行ライブラリー名

投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト(LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リストを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中のライブラリー・リストがこのジョブに使用されます。

***JOBID**

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

***SYSVAL**

システムの省略時のユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

***NONE**

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

ライブラリー・リスト名

このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージのロギング(LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

指定できるレベルの値は次の通りです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ・レベル

このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定する0-4の範囲内の値を指定してください。ロギング・レベルの値は次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 4** 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドおよび重大度コードが指定された重大度以上の（追跡メッセージを含む）すべてのメッセージ。

注: 高レベル・メッセージは、CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

メッセージ重大度に指定できる値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

メッセージ重大度

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを示す00-99の範囲の値を指定してください。

考えられるメッセージ・テキストのレベルの値は次の通りです。

***SAME**

パラメーターの現在の値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか、またはユーザーに表示されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージのヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか、あるいはユーザーに表示されます。

***NOLIST**

ジョブが正常に完了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには、メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

[トップ](#)

CLプログラムのコマンドのログ(LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドの**メッセージ・ロギング(LOG)**パラメーターに***JOB**が指定されている場合は、このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは、要求と同じ方法でログに記録されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

[トップ](#)

照会メッセージに対する応答(INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されます。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

***SYSRPYL**

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確認するために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあつた場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留(HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうか決定されます。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ(SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストすることができ、プログラムの流れを制御するために使用されます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0 (オフ) と1 (オン) だけです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

スイッチ設定値

投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列(MSGQ)

投入されたジョブが正常または異常にかかわらず、実行を完了した時に完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

メッセージ待ち行列名

完了メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前（ライブラリー名／メッセージ待ち行列名）を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列名を見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

会計コード(ACGCDE)

この記述を使用するジョブに使用されるシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

***JOBID**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

***USRPRF**

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

***BLANK**

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

会計コード

この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位(RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は、他のジョブとマシン資源の使用を競合する時のジョブの重要性を表す1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの値です。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

***NOCHG**

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

マシン実行優先順位

ジョブが使用する1-99の範囲の実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

初期ASPグループ(INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、補助記憶域プール・グループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立したASPの中にあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーのオブジェクトは、通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立したASPの中にあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP 番号 2-32)の中のライブラリーがそのスレッドのためのライブラリー名スペースを形成します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

***CURRENT**

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*NONE

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前 投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

トップ

例

```
SBMJOBJS JOB(JOB02) TIME('300') DATE('8/19/99')
```

このコマンドは、ジョブJOB02を投入し、それが1999年8月19日の3:00 A.M.に実行されるようにスケジュールします。この例では、DATEは**MM/DD/YY**形式で表されます。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JS使用の従属ジョブの設定 (SETDEPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した従属ジョブの設定(SETDEPJS)コマンドによって、先行/後続関係にある先行ジョブの完了フラグを*YESから*NOまたはその逆に変更することができます。完了フラグは、ジョブの処理が完了したかどうかを表します。このコマンドによって、従属ジョブを投入または投入から除外して、そのジョブを完了させるか、完了させないかを指示することができます。

たとえば、毎平日の5:00 P.M.に実行する1日の終わり(EOD)ジョブをセットアップすることができます。EODジョブの完了後の金曜日に実行するようスケジュールされている週の終わり(EOW)処理のための従属ジョブをセットアップすることもできます。EOWCHECK (週の終わりのチェック) と呼ばれる3番目のジョブをセットアップすることができ、その唯一の目的はEODジョブの完了フラグを*YESから*NOに変更することです。このEOWCHECKジョブは金曜日の5:00 P.M.より前に実行されます。これを実行する理由は、EODジョブの完了後の金曜日にEOWジョブを実行できるようにすることにあります。そのためには、次のコマンド・ストリングを使用することができます。

```
SETDEPJS PREDJOB(EOD) SUCCJOB(EOW) COMPLETE(*NO)
```

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PREDJOB	先行ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
SUCCJOB	後続ジョブ項目	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
COMPLETE	完了	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

先行ジョブ項目(PREDJOB)

変更したい先行ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブについて1つのジョブを指定しなければなりません。任意に、ジョブが属しているグループを、そのグループ内のジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30,など），必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

変更したい先行ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブはグループに割り当てられていません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

後続ジョブ項目(SUCCJOB)

変更したい先行ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブについて1つのジョブを指定しなければなりません。代わりに、ジョブが属しているグループを、そのグループ内のジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30,など），必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておかなければなりません。

***ALL** すべての後続ジョブが、変更するジョブに組み込まれます。

ジョブ名

変更したい後続ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブはグループに属していません。

グループ名

ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***NONE**

ジョブには順序番号はありません。

グループ順序番号

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

完了(COMPLETE)

先行ジョブの完了フラグを完了(*YES)から未完了(*NO), あるいはその逆に変更するかどうかを指定します。

***YES** 完了フラグを*YESに変更します。

***NO** 完了フラグを*NOに変更します。

トップ

例

例1:先行ジョブの変更

```
SETDEPJS  PREDJOB(JOB10)  SUCCJOB(JOB11)
```

このコマンドは、ジョブJOB10を**処理済み**に設定し、したがって、JOB11をJOB10の後続ジョブとして実行できるように解放します。

例 2 :週の終わり処理の起動

```
SETDEPJS  PREDJOB(EOD)  SUCCJOB(EOW)  COMPLETE(*NO)
```

このコマンドは、毎平日の5:00 P.M.に実行される1日の終わり(EOD)ジョブをセットアップします。EODジョブの完了後の金曜日に実行するようにスケジュールされている週の終わり(EOW)処理のための従属（後続）ジョブをセットアップすることもできます。EOWCHECK（週の終わりのチェック）と呼ばれる3番目のジョブをセットアップすることができ、その唯一の目的はEODジョブの完了フラグを*YESから*NOに変更することです。このEOWCHECKジョブは金曜日の5:00 P.M.より前に実行されます。これを実行する理由は、EODジョブの完了後の金曜日にEOWジョブを実行できるようにすることにあります。このコマンドはEOMCHECKジョブで使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JSを使用したステップの設定 (SETSTPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したステップの設定(SETSTPJS)コマンド画面では、ロギングの目的でアプリケーション内のステップにラベル付けすることができます。たとえば、バックアップの開始時、またはバックアップの完了時にプログラム内のステップを設定することができます。このステップには「BACKUP BEGINNING (バックアップ開始)」または「BACKUP COMPLETE (バックアップ完了)」のラベルを付けて、LOGを*YESに設定することができます。これにより、そのステップに達するとテキストがJSログに出力されます。

アプリケーションのステップを参照したい場合は、それらを3つの場所に表示することができます。これらの場所には、次のものがあります。

拡張ジョブ・スケジューラーWIRELESS用

活動ジョブの詳細の中にステップが表示されます。メインメニューから「拡張ジョブ・スケジューラーWIRELESS用」を選択し、「ジョブ」を選択してから「活動」を選択し、次に、ステップを表示したいジョブを選択します。ジョブのオプション・リストから「詳細」を選択します。ジョブの詳細が表示されます。「ステップ」の横にステップのテキストが表示されます。

DSPJOBJS

DSPJOBJS コマンドから、ステップを表示したいジョブの横にオプション5を入力します。ジョブの詳細が表示されます。「ステップ」の横にステップのテキストが表示されます。

ISERIESナビゲーター

ジョブのステップ情報は「ジョブのプロパティ」ダイアログ・ボックスに表示されます。ジョブを右クリックして、「プロパティ」を選択します。「最終実行」タブに進みます。「コマンド」ステップの横にステップ情報が表示されます。この情報はスケジュール済みジョブ活動にも適用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TEXT	テキスト	文字値, *NONE	オプション、位置 1
LOG	ログ	*YES, *NO	オプション

トップ

テキスト(TEXT)

ステップのテキスト記述を指定します。LOGが*YESに設定されていれば、これもJSログに出力されます。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

このステップと関連したテキストはありません。

テキスト

ステップのテキストを指定してください。ステップがログに記録された場合は、このテキストもJSログに表示されます。

[トップ](#)

ログ(LOG)

ステップのテキストをJSログに出力したい場合に指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NO ステップをログに記録したくない場合です。

*YES ステップをログに記録したい場合です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した配布の送信 (SNDDSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドにより、新規配布メッセージに添付されたスプール・ファイルを宛先またはエスカレーション・リストに送信することができます。宛先情報は、明示的に指定するかまたはスプール・ファイルから検索することができます。

注: メッセージの表示およびエスカレーションの停止には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RCP	宛先	単一値: *NONE, *SPLF, *ONCALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
SUBJECT	サブジェクト	文字値, *NONE	オプション
MSG	メッセージ	文字値, *NONE	オプション
ESCALATION	エスカレーション・リスト	文字値, *NONE, *RCP	オプション
RTNINTNET	戻りインターネット・アドレス	文字値, *RTNDFT	オプション
SPLF	スプール・ファイル	名前, *NONE	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	整数, *ONLY, *LAST	オプション
SLTTXT	選択テキスト	文字値, *NONE	オプション
ATTACH	接続名	名前, *SPLF, *NONE	オプション
SUFFIX	接続接尾部	文字値, PDF	オプション
RMVSPLF	スプール・ファイルの除去	*NO, *YES	オプション
TOINTNET	インターネット・アドレス	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
ADRLOC	アドレスの場所	要素リスト	オプション
	要素 1: 行番号	0-256, *TEXT	
	要素 2: 開始位置	0-256, *AFTER	
	要素 3: 長さ	0-60	
	要素 4: テキスト	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	出口プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

宛先(RCP)

配布メッセージの送信先としたい宛先を指定します。

注: 宛先の電子メール情報の作成および更新には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

***SPLF** 宛先情報は添付されたスプール・ファイルから検索されます。

***NONE**

配布メッセージについて指定された宛先はありません。インターネット・アドレスを指定しなければなりません。

***ONCALL**

待機中の宛先のみがこのメッセージを受け取ります。

宛先名 宛先の名前を指定してください。既存の宛先のリストから選択するには、F4キーを押します。

トップ

サブジェクト(SUBJECT)

配布メッセージのサブジェクトを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

配布メッセージのサブジェクトはありません。

サブジェクト・テキスト

配布メッセージのサブジェクトを指定してください。

トップ

メッセージ(MSG)

配布メッセージのメッセージ・テキストを指定します。

注: メッセージを強制的に改行するには、メッセージの中で&Nを使用します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

配布メッセージのメッセージ本体はありません。

サブジェクト・テキスト

配布メッセージのメッセージ本体を指定してください。

[トップ](#)

エスカレーション・リスト(ESCALATION)

配布メッセージのエスカレーション・リストを指定します。

注: エスカレーション・リストの保守には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

***RCP** 宛先と関連したエスカレーション・リストが配布メッセージに使用されます。

***NONE**

配布メッセージに使用されるエスカレーション・リストはありません。

エスカレーション・リスト

配布メッセージのエスカレーション・リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

戻りインターネット・アドレス(RTNINTNET)

配布メッセージの戻りインターネット・アドレス（電子メール・アドレスなど）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***RTNDFT**

電子メールのプロパティに指定された戻りインターネット・アドレスを使用します。

戻りインターネット・アドレス

配布メッセージの戻り電子メール・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル(SPLF)

配布メッセージに添付したいスプール・ファイルを指定します。

注: グラフィックスを含むスプール・ファイルは使用できません。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

配布メッセージと一緒にスプール・ファイルを送信する必要はない場合です。

スプール・ファイル名

配布メッセージに添付するスプール・ファイルの名前を指定してください。

ジョブ名(JOB)

配布メッセージに添付されるスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* スプール・ファイルを作成したジョブがこのコマンドを出しました。

ジョブ名

 スプール・ファイルを含むジョブの名前を指定してください。

指定できるユーザーの値は、次の通りです。

ユーザー名

 スプール・ファイルを作成したユーザーの名前を指定してください。

指定できる番号の値は、次の通りです。

番号 システムが割り当てたジョブ番号の000000から999999の間の番号を指定してください。

トップ

スプール・ファイル番号(SPLNBR)

配布メッセージに添付されるスプール・ファイルの固有の番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

 ジョブ内の 1 つのスプール・ファイルだけが指定された名前を持っています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名を持つ複数のスプール・ファイルがあった場合は、最高の番号を持つスプール・ファイルが最初に送信されるファイルです。

スプール・ファイル番号

 送信したいファイルと一致するスプール・ファイルの番号を指定してください。

トップ

選択テキスト(SLTTXT)

配布メッセージに添付するために選択したいスプール・ファイルのページに含まれるテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

 スプール・ファイルの全体が送信されます。

選択テキスト

 配布メッセージに添付したいスプール・ファイルのページに含まれるテキストを指定してください。

い。たとえば、SLTTXT('ACCOUNT - 1234')のように指定すると、ADVANCED JOB SCHEDULERは'ACCOUNT - 1234'を含むページを選択して、ユーザーが指定した宛先に送信します。

[トップ](#)

添付文書名(ATTACH)

スプール・ファイル添付文書の名前を指定してください。

[トップ](#)

添付文書接尾部(SUFFIX)

スプール・ファイル添付文書の拡張子名を指定します。任意の3または4文字の拡張子をスプール・ファイルに指定することができます。省略時拡張子はポータブル文書形式の添付文書変換を表すPDFです。しかし、拡張子を変更しても、必ずしもファイル自体の実際の形式が変更されるわけではありません。たとえば、拡張子をTXTに変更した場合、メール送信される時には、添付ファイルはテキスト・ファイル添付文書の特性のみを持ちますが、そのファイル自体は実際のテキスト・ファイルにはなりません。これは、システム上に電子メールに添付する必要がある実際のテキスト・ファイルがある場合にのみ有効です。

注: PDFは別として、TXTは電子メール添付文書に正しく変換される唯一の拡張子です。

[トップ](#)

スプール・ファイルの除去(RMVSPLF)

配布メッセージが完了した後に、スプール・ファイル添付文書をシステムから除去したいかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** メッセージが完了した後にスプール・ファイルを除去したくない場合です。

***YES** メッセージが完了した後にスプール・ファイルを除去したい場合です。

[トップ](#)

インターネット・アドレス(TOINET)

配布メッセージのインターネット・アドレス（電子メール・アドレスなど）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

このメッセージのインターネット・アドレスはありません。

インターネット・アドレス

配布メッセージのインターネット・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

アドレス・ロケーション(ADRLOC)

配布メッセージのアドレス情報（電子メール・アドレスなど）を検索するために使用したいパラメーターを指定します。これには、スプール・ファイル内の行番号、開始位置、長さ、および検索テキストが含まれます。電子メール・アドレスは、スプール・ファイルの各ページから抜き出したり、あるいは出口プログラムおよびスプール・ファイルの各ページから抜き出された値を使用して検索することができます。たとえば、送り状用の電子メール・アドレスは常に3行目の40桁目から長さが40となるように指定することができます。あるいは、電子メール・アドレスは長さが40で語'EMAIL:'の後に見つかるように指定することができます。また、顧客のアカウント番号を長さが10で語'ACCOUNT:'の後に見つかり、出口プログラムが抜き出されたアカウント番号用の電子メール・アドレスを検索するように指定することができます。

考えられる行の値は、次の通りです。

***TEXT** アドレス情報を識別するために検索テキストを使用します。

行番号 スプール・ファイル内の行番号を指定してください。これは0-256の範囲とすることができます。

指定できる開始位置の値は、次の通りです。

***AFTER**

開始位置は、位置指定された検索テキストの後の先頭文字となります。

開始位置

スプール・ファイル内の開始位置を指定してください。これは0-256の範囲とすることができます。

指定できる長さの値は、次の通りです。

長さ アドレス情報の長さを指定してください。これは0-60の範囲とすることができます。

指定できるテキストの値は、次の通りです。

テキスト

スプール・ファイル内で検索するテキストを指定してください。

[トップ](#)

出口プログラム(PGM)

ADVANCED JOB SCHEDULERがアドレスを検索するために使用するプログラムを指定します。アドレス情報を検索するためにプログラムに必要なキー情報を位置指定するために、ADRLOCパラメーターが使用されます。以下の例では、アカウント番号はスプール・ファイルの各ページの5行目の3桁目で見つかり、長さは10です。このプログラムは、スプール・ファイルで見つかったアカウント番号の電子メール・アドレスを検索するために呼び出されます。このユーザー作成プログラムには2つのパラメーターが必要です。最初は60バイトの文字パラメーターです。これには、行番号、開始位置、および長さに基づいてスプール・ファイルから抜き出された値が入れます。2番目は256バイトの文字パラメーターです。これは、スプール・ファイルのそのページの送信時に使用する電子メール・アドレスを戻すものでなければなりません。アドレスが見つからない場合は、ブランクを戻す必要があります。

注: ==> SNDDSTJS SPLF(QPINVOICE) JOB(*) SPLNBR(*LAST) MSG('ATTACHED IS YOUR INVOICE.') PGM(MYLIB/PGMEXIT) SNDINF(5 3 10)

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

アドレスの検索にプログラムは使用されません。

プログラム名

アドレスを検索する出口プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

ライブラリー名

出口プログラムを含むライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した報告書の送信 (SNDRPTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した報告書の送信(SNDRPTJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERの報告書配布機能の一部として、指定された報告書配布IDに報告書を配布することができます。このコマンドは、報告書配布IDに指定された報告書を指定の宛先に配布するために、ユーザーの制御言語プログラム内のADVANCED JOB SCHEDULERの外側で使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RPTDSTID	報告書配布ID	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

指定されたジョブによって作成されたスプール・ファイルを配布する時にその項目が使用される報告書配布IDの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ジョブ(JOB)

配布されるスプール・ファイルが属するユーザー・ジョブの名前を指定します。

* _ 現行ジョブのスプール・ファイルが配布されることとなります。

ジョブ名

配布したいスプール・ファイルをもっているジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

ジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

例

SNDRPTJS RPTDSTID(GLEOM)

このコマンドは、報告書配布ID GLEOMを使用してジョブを配布します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したグループの開始 (STRGRPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したグループの開始(STRGRPJS)コマンドを使用することにより、ジョブ・グループを開始することができます。グループはユーザーが指定する最初のジョブから開始され、そのジョブに続くすべてのジョブが投入されます。たとえば、グループの中に10個のジョブがあって、**ジョブ(JOB)**パラメーターに順序番号5を指定した場合には、STRGRPJSコマンドの結果として、5から10番目までのジョブが投入されます。グループ全体を処理したい場合には、順序番号1をもつジョブの名前を指定しなければなりません。投入時刻およびグループと関連したパラメーター・データを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前	
	要素 3: グループ順序	1-99	
TIME	投入時刻	*SCHED , *IMMED	オプション, 定位置 2
PARM	パラメーター	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パラメーター名	名前	
	要素 2: パラメーター・データ	文字値	

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

ジョブの名前、ジョブが属しているグループ、およびグループ内のジョブの順序番号を指定します。パラメーターのすべての要素を指定しなければなりません。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

ジョブ名

グループの中の投入したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

グループ名

開始したいグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

グループ順序番号

グループ中の処理を開始したいジョブの順序番号を指定してください。

トップ

投入時刻(TIME)

このグループを投入したい時刻を指定します。グループは直ちに投入するか、あるいは次のスケジュール時刻に投入することができます。

*SCHED

グループは、ADVANCED JOB SCHEDULERによって次のスケジュール時刻に投入されます。

*IMMED

グループは直ちに投入されます。これは、1より大きい順序番号の場合の省略時の値です。

トップ

パラメーター(PARM)

投入されるグループで使用したいパラメーターの名前を指定します。指定するパラメーターは、ADVANCED JOB SCHEDULERに定義されているものでなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このフィールドにはどんな文字を入力しても構いません。妥当性は、プログラム内のパラメーターの使用範囲まで、またはジョブの投入時にはADVANCED JOB SCHEDULERジョブの使用範囲まで検査されます。パラメーター・データの文字数は**パラメーター長**フィールドに入れられている長さに対応していなければなりません(パラメーターがADVANCED JOB SCHEDULERに追加されている場合)。**パラメーター長**フィールドより短い長さで入力されたデータは、パラメーターの長さまで空白が埋め込まれて渡されます。先行空白および組み込み空白は、入力された通り正確にユーザーの要求データのパラメーターに渡されます。パラメーター・データの中で使用するアポストロフィ(')は対で使用しなければなりません。アポストロフィを1つしか使用しなかった場合は、そのパラメーターは「パラメーター・データ内の引用符(')は対でなければならぬ」というエラーで拒否されます。続行する前にこのエラーを訂正しなければなりません。

パラメーター名として指定できる値は次の通りです：

*NONE

投入するグループの場合には、ここでパラメーターを入力する必要はありません。

パラメーター名

このグループで使用したいパラメーターを指定してください。

パラメーター・データとして指定できる値は次の通りです：

パラメーター・データ

パラメーター名(PARM)パラメーターに指定されているパラメーターのパラメーター・データを指定してください。

トップ

例

STRGRPJS JOB(JOB02 APDAILY 20) TIME(*IMMED)

このコマンドは、APDAILYと呼ばれるグループをジョブ順序番号20から順に即時に開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラー開始 (STRJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーの開始(STRJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・モニターまたはアプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を開始することができます。ジョブ・モニターを開始した場合に、現在の日付および時刻より小さいスケジュール日付および時刻をもつジョブがある場合には、「モニターの開始」画面が表示されますので、この画面で、スケジュール済みジョブを再検討しないでADVANCED JOB SCHEDULERモニターを開始するか、あるいは保留ジョブを再検討するまでモニターの開始を延期するかを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*MONITOR , *CAPTURE	オプション、位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *ALL, *USRPRF	オプション

[トップ](#)

オプション(OPTION)

ADVANCED JOB SCHEDULERのモニターを開始するか、あるいはジョブ情報の収集を開始するかを指定します。

***MONITOR**

ADVANCED JOB SCHEDULERのモニターを開始します。

***CAPTURE**

アプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を開始します。

[トップ](#)

データ・ライブラリー(DTALIB)

ADVANCED JOB SCHEDULERのモニターを開始したいデータ・ライブラリーを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***USRPRF**

現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたデータ・ライブラリーが使用されます。

***ALL** 既存のすべてのデータ・ライブラリーが使用されます。

データ・ライブラリー名

使用したいデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
STRJS OPTION(*MONITOR)
```

このコマンドはジョブ・スケジューラー・モニターを開始します。モニターは、ジョブ・スケジューラーの終了(ENDJS)コマンドを実行するまで活動状態のままです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した活動記録の処理 (WRKHSTJS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した活動記録の処理(WRKHSTJS)コマンドによって、指定した完了状況、日付範囲、および順序に基づいてジョブ完了活動記録を処理することができます。ジョブ・スケジューラーを使用した活動記録の処理コマンドは「活動記録の処理」画面を表示し、その画面には、ユーザーがWRKHSTJSコマンドで選択したパラメーターに基づいて、ジョブ情報、ジョブの最後の実行情報および完了状況が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL , *NONE	
STATUS	完了状況	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *NORMAL, *ABNORMAL, *ABNGRP, *SBMERROR, *PROCESS, *JOBQ, *CANCELLED, *RESET	オプション
PERIOD	活動記録出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, *END		
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *ALL , *LCL, *JOBCTL	オプション
SEQOPT	順序付けオプション	*DATE , *JOB, *GROUP	オプション
START	最初に表示する項目	*LAST , *FIRST	オプション

[トップ](#)

ジョブ項目(JOB)

処理したい1つ以上のジョブの名前を指定します。グループおよび活動記録を処理したいジョブの対応順序番号を指定することができます。表示をジョブ別、日付別、またはグループ別に配列することができます。実行キーを押すと「活動記録の処理」画面が表示されるので、この画面で、指定するジョブ活動記録情報について、いろいろな処置を実行することができます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** コマンドに指定されている基準に適合するすべてのジョブについて、ADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録を処理します。

総称*ジョブ名

ジョブは総称です。たとえばJOB*と指定すると、名前がJOBで始まるすべてのジョブが「活動記録の処理」画面に組み込まれることになります。

ジョブ名

処理したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** 任意のグループのメンバーであるすべてのジョブについて、ADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録を処理します。

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

総称*グループ名

グループは総称です。たとえばGROUP*と指定すると、名前がGROUPで始まるすべてのグループが「活動記録の処理」画面に組み込まれることになります。

グループ名

処理したいグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***ALL** すべての順序番号が処理したいジョブに組み込まれます。

*NONE

ジョブには順序番号がありません。

グループ順序番号

処理したいジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1-99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

状況(STATUS)

ADVANCED JOB SCHEDULERの活動記録情報を表示する時に使用する完了状況を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 完了状況に関係なく、すべてのジョブが「活動記録の処理」画面に組み込まれます。

*NORMAL

ジョブは正常完了で終了しました。

*ABNORMAL

ジョブは異常完了しました。ジョブが異常終了した理由は、ADVANCED JOB SCHEDULERログを使用して判別できます。

*ABNGRP

グループは異常終了しました。この完了状況は、前のジョブ・グループが正常に実行されなかったために処理されなかったグループ中のすべてのジョブに適用されます。

***SBMERROR**

ジョブは、ジョブ投入でエラーがあったために正常に実行されていません。投入エラーの例には、ジョブを投入する適切な権限をもたないユーザーがジョブを投入した場合があります。

***PROCESS**

ジョブは現在システムで処理中です。

***JOBQ**

ジョブは現在ジョブ待ち行列で処理を待機中です。

***CANCELLED**

ジョブは完了する前に取り消されました。

***RESET**

ジョブは手操作でリセットされました。

[トップ](#)

活動記録出力の期間(PERIOD)

表示用に活動記録項目が選択されている期間を指定します。このパラメーターには、それぞれ2つの要素からなる2つのリストが含まれます。

開始時刻

次の1つを使用して開始時刻（この時刻以降に活動記録項目が組み込まれる）を指定します。指定した時刻および日付より前に開始されたジョブはすべて画面には組み込まれません。

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

開始時刻

指定した開始日付に対する開始時刻を指定してください。これにより、どの活動記録項目を組み込むかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません（必要な場合は先行ゼロを使用する）。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。この場合、ユーザーのジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始日付

次の1つを使用して、その日以降に活動記録項目が作成される開始日付を指定します。指定した日付より前の実行日付は画面に組み込まれません。

***BEGIN**

活動記録項目の最初の項目から組み込まれます。

***CURRENT**

現在の日付で、指定された開始時刻と終了時刻の間（指定されている場合）の実行日付が組み込まれます。

開始日付

開始日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの開始日付は03/02/01となります。

終了時刻

次の1つを使用して終了時刻を指定します。この時刻より前の活動記録項目が組み込まれます。指定した時刻および日付より後のジョブ完了時刻は、画面の活動記録項目に組み込まれません。

***AVAIL**

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

終了時刻

指定した終了日付に対する終了時刻を指定してください。これにより、どの活動記録項目を組み込むかを指示します。

終了日付

次の1つを使用して終了日付を指定します。この日付またはそれ以前に活動記録項目が作成されていなければなりません。指定した日付より後の実行日付は画面に組み込まれません。

***END** 活動記録情報の終わりまでの活動記録項目が、画面に組み込まれます。

***CURRENT**

実行日付が現在日またはそれ以前となっている活動記録項目が画面に組み込まれます。

終了日付

終了日付を指定してください。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

日数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの終了日付は03/12/01となります。

トップ

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

処理したいジョブ活動記録を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク中のすべてのシステムに対してすべてのジョブ活動記録を選択します。

***LCL** ローカル・システムに対してすべてのジョブ活動記録を選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用して、すべてのジョブ活動記録を選択します。

リモート・ロケーション名

処理したいジョブ活動記録のあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

順序付けオプション(SEQOPT)

「活動記録の処理」画面は、いくつかの方法で順序付けることができます。

***DATE**

「活動記録の処理」画面を日付別に順序付けます。

***JOB** 「活動記録の処理」画面をジョブ別に順序付けます。

***GROUP**

「活動記録の処理」画面をグループ別に順序付けます。

[トップ](#)

最初に表示される項目(START)

最も新しいジョブ活動記録項目を最初に表示するか、あるいは最も古いジョブ活動記録項目を最初に表示するかを指定します。ジョブ活動記録項目が別の表示画面上にある場合には、表示装置ユーザーは画面を上下に移動することによって、それを表示することができます。

***LAST** 最後の（最も新しい）ジョブ活動記録が画面の最下行に表示されます。

***FIRST**

最初の（最も古い）ジョブ活動記録が画面の最上行に表示されます。

[トップ](#)

例

```
WRKHSTJS SEQOPT(*JOB)
```

このコマンドは、すべてのジョブおよびすべてのグループについて、「活動記録の処理」パネルをジョブ別に順序付けて表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの処理 (WRKJOBJS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの処理(WRKJOBJS)コマンドを使用することにより、単一のジョブ、ジョブのグループ、またはADVANCED JOB SCHEDULERにセットアップしたすべてのジョブを処理することができます。表示をジョブ別、日付別、またはグループ別に配列することができます。

処理したいジョブを選択すると、「ジョブの処理」画面が表示されます。この画面から、ほとんどのジョブ関連機能を実行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, <u>*ALL</u> , *NONE	
APP	アプリケーション	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
SCDCDE	スケジュール・コード	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *TEMP, *NONE	オプション
CAL	予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
HDYCAL	休日予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
FSCCAL	会計予定表	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*ALL</u> , *LCL, *JOBCTL	オプション
RPTDSTID	報告書配布ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *JOBCTL, *JOBID, *SYSVAL, *NONE	オプション
STATUS	ジョブ状況	<u>*ALL</u> , *READY, *DEPW, *HELD, *OMIT, *PROCESS, *JOBQ, *SAVED	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*ALL</u> , *NONE, *GENERIC*	オプション
CMD	コマンド要求	文字値, <u>*ALL</u> , *NONE, *GENERIC*	オプション
SEQ	順序	<u>*JOB</u> , *DATE, *GROUP	オプション

トップ

ジョブ項目(JOB)

単一ジョブ、ジョブの総称グループ、またはすべてのジョブを処理したいことを指定します。総称グループをもつ単一ジョブ、単一グループをもつすべてのジョブなどを指定することができます。

ジョブとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** パラメーターの他の指定に適合するすべてのジョブを処理します。

総称*ジョブ名

処理したいジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

ジョブ名

処理したいジョブの名前を指定してください。

グループとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** 指定した1つ以上のジョブがメンバーとなっているすべてのグループが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。

*NONE

1つ以上のジョブと関連したグループはありません。

総称*グループ名

処理したいグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

グループ名

処理したい1つ以上のジョブが入っているグループの名前を指定してください。

グループの順序として指定できる値は次の通りです。

***ALL** 指定した1つ以上のグループのすべての順序番号が、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。

*NONE

このジョブと関連した順序番号はありません。

グループ順序番号

1つ以上のグループ内の処理したいジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1から99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

アプリケーション(APP)

処理したいアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーション項目が、「ジョブの処理」画面に表示されます。

*NONE

ジョブはアプリケーションに割り当てられていません。

総称 *アプリケーション名

アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

アプリケーション名

処理したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

スケジュール・コード(SCDCDE)

処理したい1つ以上のジョブのスケジュール・コードまたはスケジュール名を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのスケジュール・コード項目が、「ジョブの処理」画面に表示されます。

*DAILY

処理したいジョブは、*DAILYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*CALENDAR

処理したいジョブは、*CALENDARスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*DATE

処理したいジョブは、*DATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***DAY** 処理したいジョブは、*DAYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*NUMDAY

処理したいジョブは、*NUMDAYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*MINUTES

処理したいジョブは、*MINUTESスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*ONCE

処理したいジョブは、*ONCEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*MONTHEND

処理したいジョブは、*MONTHENDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*FIRST

処理したいジョブは、*FIRSTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

*SECOND

処理したいジョブは、*SECONDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***THIRD**

処理したいジョブは、*THIRDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FOURTH**

処理したいジョブは、*FOURTHスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIFTH**

処理したいジョブは、*FIFTHスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。月の中に5番目のオカレンスがない場合にはジョブは実行されず、次に月の中に選択された日の5番目のオカレンスのあるときに実行するようにスケジュールされます。

***LAST** 処理したいジョブは、*LASTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

処理したいジョブは、*FIRSTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***LASTWRK**

処理したいジョブは、*LASTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***ALTERNATE**

処理したいジョブは、*ALTERNATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***TEMP**

処理したいジョブは一時的なジョブであり、SBMJOBJSコマンドの処理の結果として作成されません。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバーとするか、先行ジョブの実行を待機中のジョブとするか、あるいはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されていたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

スケジュール

処理したいジョブは、指定されたスケジュールまたは指定のスケジュールに見つかったスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。たとえば、ユーザー定義のスケジュールMONTHLY1はスケジュール・コード*DAYを使用しています。MONTHLY1を指定することにより、スケジュールとしてMONTHLY1あるいはスケジュール・コードとして*DAYが使用されているジョブのすべてがリストされることになります。

トップ

予定表(CAL)

処理したいジョブの予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての予定表項目が画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには予定表は割り当てられません。

総称 * 予定表名

予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な予定表名と見なします。

予定表名

処理したい予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

休日予定表(HDYCAL)

処理したいジョブの休日予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての休日予定表項目が、画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには休日予定表は割り当てられません。

総称 * 休日予定表名

休日予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる休日予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な休日予定表名と見なします。

休日予定表名

処理したいジョブの休日予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

会計予定表(FSCCAL)

処理したいジョブの会計予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての会計予定表項目が画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには会計予定表は割り当てられません。

総称 * 会計予定表名

会計予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる会計予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全な会計予定表名と見なします。

会計予定表名

処理したいジョブの会計予定表のユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名(RMTLOCNAME)

処理したいジョブ項目を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク内のすべてのシステムのすべてのジョブ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのジョブ項目を選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用するすべてのジョブ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

処理したいジョブ項目が入っているシステムと対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

処理したいジョブの報告書配布名のIDを指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての報告書配布IDが、画面上に表示されます。

***NONE**

報告書配布IDをもつジョブを画面に組み込みません。

総称 * 報告書配布ID

報告書配布IDは総称です。たとえば、"ACT*"を指定することによって、その報告書配布IDが文字"ACT"で始まるすべてのジョブが表示に組み込まれることになります。

報告書配布ID

処理したいジョブの報告書配布IDを指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト(LIBL)

処理したいライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リスト名を選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

***ALL** ライブラリー・リストに関係なく、すべてのジョブが画面に組み込まれます。

***JOBCTL**

そのライブラリー・リストが*JOBCTLであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***JOB**

そのライブラリー・リストが*JOBであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***SYSVAL**

そのライブラリー・リストが*SYSVALであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***NONE**

そのライブラリー・リストが*NONEであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

総称 *ライブラリー・リスト名

ライブラリー・リスト名は総称です。たとえば、"LIB*"を指定することによって、そのライブラリー・リストが文字"LIB"で始まるすべてのジョブが画面に組み込まれることとなります。

ライブラリー・リスト名

画面に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

ジョブ状況(STATUS)

処理したいジョブの状況コードを指定します。

***ALL** 他のパラメーターの指定に適合するすべてのジョブを組み込みます。

***READY**

ジョブ状況が*READYとなっているジョブだけが「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*READYのジョブは、それらの次のスケジュール日時に処理されるのを待機しているジョブです。

***DEPW**

そのジョブ状況が*DEPWであるジョブだけが「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*DEPWのジョブは、他のジョブまたはイベントに基づいて処理されるのを待機しているジョブです。

***HELD**

ジョブ状況が*HELDとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*HELDのジョブは保留されていて、解放されるまで処理されません。

***PROCESS**

ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*PROCESSのジョブは、その表示の時点で処理中のジョブです。

***JOBQ**

ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*JOBQのジョブは、その表示の時点でジョブ待ち行列上にあるジョブです。

***SAVED**

ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブとは、将来の使用のために保管されている1回限りのジョブのことです。

トップ

テキスト(TEXT)

処理したいジョブに関連したテキストを指定します。任意の文字ストリングを検索ことができ、テキスト中にその文字ストリングが入っているジョブ・スケジュール項目だけが、画面に組み込まれます。

***ALL** テキストに関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

***NONE**

テキストにブランクまたは*NONEが入っているすべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

総称 * テキスト

総称テキストを指定してください。たとえば、"THE JOB*"と指定すると、"THE JOB"という語で始まるすべてのテキストが画面に組み込まれることになります。

テキスト

指定したテキスト・stringをもつすべてのジョブ・スケジュール項目を処理したいことを指定してください。

[トップ](#)

コマンド要求(CMD)

処理したいジョブのコマンド要求を指定します。任意のコマンド要求、またはコマンド文字のstringを組み込んだり、あるいはコマンド要求をもたない項目を処理することができます。

***ALL** コマンド要求の有無にかかわらず、すべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

***NONE**

コマンド要求をもたないすべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

総称 * コマンド要求

総称コマンド情報を指定します。たとえば、"CALL PG*"と指定すると、"CALL PG"というstringで始まるすべてのコマンド要求が画面に組み込まれることになります。

コマンド要求

指定したコマンド要求をもつすべてのジョブ・スケジュール項目を処理したいことを指定してください。

[トップ](#)

順序(SEQ)

選択したジョブ・スケジュール項目を処理する順序を指定します。

***JOB** ジョブ・スケジュール項目をジョブの順序で処理します。

***DATE**

ジョブ・スケジュール項目を予定表の日付の順序で処理します。

***GROUP**

ジョブ・スケジュール項目をグループの順序で処理します。

[トップ](#)

例

```
WRKJOBJS  SCDCDE(*DAILY)  STATUS(*READY)  SEQ(*DATE)
```

このコマンドは、スケジュール・コードが*DAILYで、状況コードが*READYのすべてのジョブを示す「ジョブの処理」パネルを表示します。ジョブは日付順に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan